



珍袖

海浴示導
全

71
305

060425-000-1

71-305

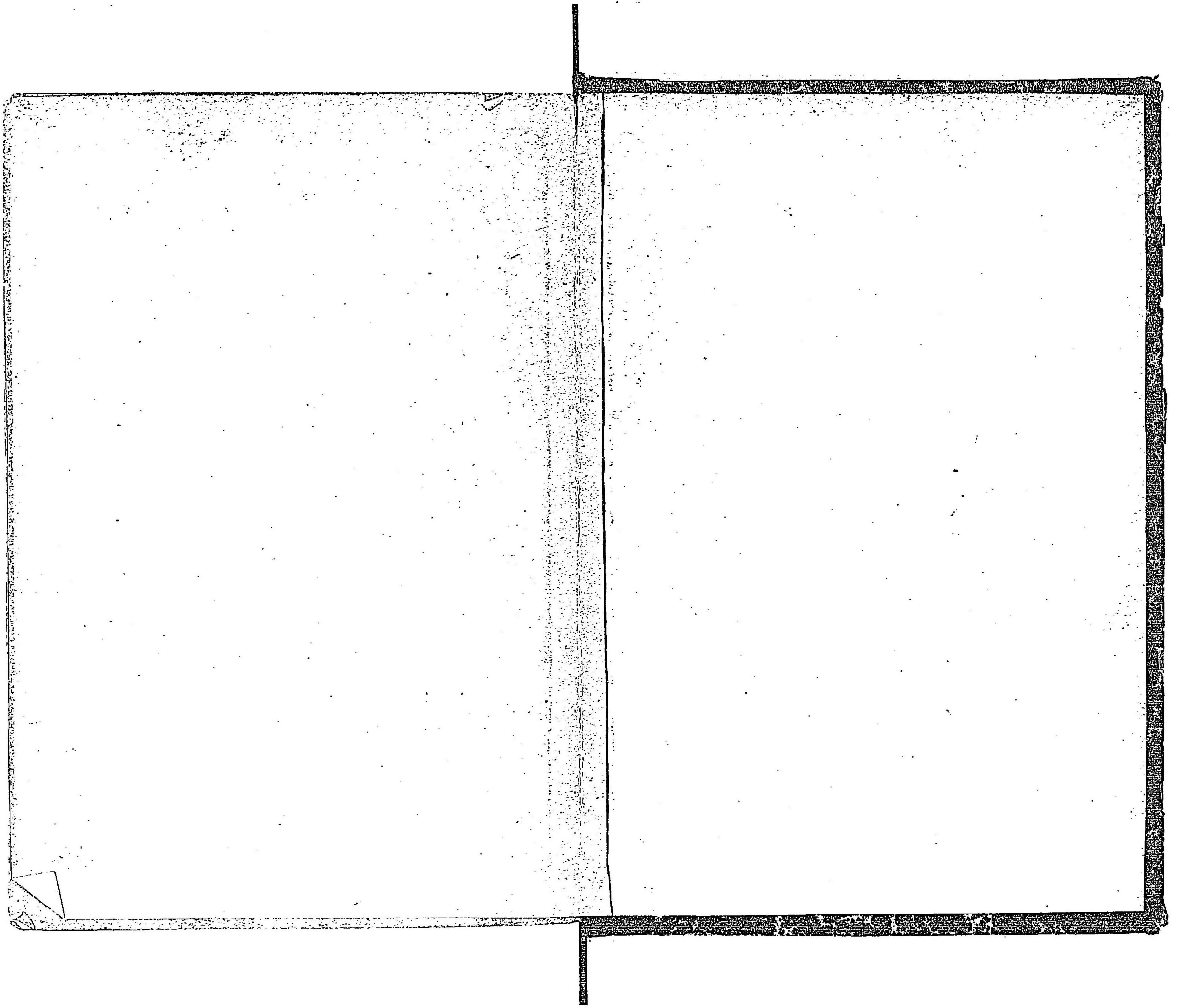
海浴示導

三潯 謙三 / 編

M28

CBM-0254





例言

一 此書ハ主トシテ獨醫トクトル「ヒルレル」氏原著海浴ノ

作用ト題シタル冊子ニ基キ編纂セルモノニシテ海水

浴及海氣浴ノ作用ヲ詳論ス

一 編中往々獨乙國東海岸浴場及北海岸并島嶼ニ於ケル

四季ノ風ノ方向温度ノ高低及海水成分ノ比較等ヲ示

ス。ト雖本邦未タ各地海浴場ニ於テ測定セルモノナキ

先以テ彼我ヲ對照シテ論述スルヲ能ハス記シテ以テ

他日ノ參考ニ供スルノミ

明治廿七年十二月



海浴示導

目次

第一編 海水浴	三
第一章 海水ノ温度	三
第二章 海水ノ成分	二十六
第三章 海水動搖ノ強弱	三十六
第四章 在浴時間ノ長短	四十六
第五章 海水浴結論	四十八
第二編 海氣浴	五十二
第一章 海氣ノ温度	五十二

第二章 海氣ノ成分……………五十八丁

第三章 海氣動搖(風)ノ強弱及方向……………七十四丁

第四章 在浴時間ノ長短……………九十四丁

備考……………九十九丁

海浴示導目次終

海浴示導

醫學士 山崎元脩校補
醫學士 三瀆謙三編纂

緒言

季節ヲ擇ハス小雖モ殊ニ夏時世人ノ海濱ニ步ヲ移シ又
ハ沿岸ノ島嶼ニ節ヲ曳クモノ歳ニ月ニ増加セリ茲ニ於
テ海浴氣浴ノ總稱ノ効驗ヲ社會一般ニ詳知スヘキノ必
要ヲ感スルニ至レリ故ニ今浴者ノ經驗ヲ集メ學術的ノ
精査ヲ遂ケ以テ其効驗ヲ判定スルハ頗ル興味アル者タ
(I)

ルヲ信セリ蓋シ海浴一般ノ効驗ニ關シテハ其論スル所未タ一定セサルノミナラス浴場ノ位置ノ異ナルニ從テ浴効ノ等差如何ニ就テハ揣摩ノ評架空ノ說最モ多キ今日ニ於テチヤ海浴ヲ分テ水浴氣浴ノ二トナス世人動モスレハ水浴ヲ以テ氣浴ニ優レリトシ主ニ水浴ニ重キヲ置クト雖輓近ノ經驗ニ由リ甫テ氣浴ノ効力水浴ニ優ルト遠キヲ知レリ加之氣浴ニハ一種特異ノ作用ヲ有ス故ニ浴場ノ各所ニ隨テ浴効ヲ異ニスルハ專ラ此氣浴ニ基クモノタルヲ知レリ今之ヲ會得セシメンカ爲茲ニ先ツ海水浴ノ作

用ヲ説キ終ニ海氣浴ノ作用ヲ詳論セントス

第一編

海水浴

海水浴ニ就テ注意スヘキ要點ニ四アリ曰ク海水ノ温度曰ク海水ノ成分曰ク海水動搖ノ強弱曰ク浴時ノ長短是ナリ

第一章

海水ノ温度

海水ノ温度ハ大氣及ヒ地表ノ温度ニ同シク地球表面ノ位置ニ關シテ多少ノ別アリ換言スレハ太陽ハ現時ノ地

(4)

海

水

浴

球ニ於テ唯一ノ温原タルカ故ニ地表ノ大陽ニ對スル距離ノ如何ニ由テ其温一齊ナラサルカ如ク海水モ亦赤道ニ近ケレハ愈々温暖之ニ遠サカレハ愈々冷寒ナリ彼ノ四季朝夕ニ由リ海水ノ寒暖ヲ異ニスルハ尙大氣ノ四季朝夕ニ由リ寒暖ヲ異ニスルト同一理ナリ但シ大氣地表及海水ノ間ニ存スル差異ノ點ハ只三者ノ理學的性質ノ差異ニ歸スルノミ則海面ハ地表及大氣ヨリ温ヲ取ルル徐々ニシテ之ヲ放散スルル亦彼レヨリ徐々ナリ故ニ大陽ノ位置ニ由テ四季朝夕ニ受クル所ノ海水温度ノ變換ハ陸地ヨリ徐々ニシテ寒暖ノ差陸地ノ如ク大ナラス又

(5)

海

水

浴

海水ノ温度ハ最高ニ達シ最低ニ下ルニモ陸地ニ比スレハ遅キ者タリ蓋シ吾人ノ緯度ニ於テ河水湖水ノ温度ハ大氣ノ温度ニ全ク相隨伴シテ昇降シ七八月ノ頃最高度ニ達スレトモ海水ハ八九月ノ候最モ温暖ナリ又海水ハ冷却スルル徐々ナルカ故ニ冬時温暖ノ最低ヲ示スモ大陸ノ空氣ヨリ亦遅クシテ一月ニ至リ初メテ最低ニ達ス且ツ大氣ノ如ク下降スルル甚シカラスノ零度以下ニ至ルカ如キハ極メテ稀有トス海水ニ浴スルハ固ヨリ夏時即チ六七八九ノ四ヶ月ヲ以テ適切ノ時期トス此期節間ノ海水温度ハ浴場ノ位置ニ因テ異ナルモ大約攝氏十

(6) 海 水 浴

三度乃至十九度ナル可シ聞ク獨乙國ニ於テハ沿海審査
委員會ナル者ヲ設ケ各浴場ノ温度風位及海水ノ成分等
ヲ調査シ年ヲ積テ確定セリト云フ本邦未タ斯ノ如キ企
ナキカ故ニ各浴場ニ就キ論スルヲ能ハサルハ最モ遺憾
トスル所ナリ

海水冷浴ノ作用

海 水 浴

海水浴ハ亦一種ノ冷水浴ニシテ其作用ハ毎ニ病院ニ行フ
所ノ冷水療法ニ均シク專ラ寒冷ノ力ヲ浴者ノ皮膚ニ致
スニアリ蓋シ此作用ニニアリ曰ク奪温曰ク神經ノ刺戟
是レナリ

甲 奪温作用

(7) 海 水 浴

海水浴ハ身體ノ温度ヲ奪フヲ著大ナル者ニ非ス世人ハ
居常奪温作用ヲ稱スレト是誠ニ邊言ノミ海水ノ能ク其
力ヲ及ホスハ只皮膚及皮下ニ存スル脂肪組織ノミニ止
リ決ノ深部ヲ寒冷ナラシメス是レ他ナシ皮膚及脂肪組
織ハ温ヲ傳導スル力ニ乏シキト一ハ浴スレハ忽チ皮膚
ノ血管収縮シテ其血液體ノ外表ヲ去テ内部ニ入り且ツ
浴スル時間ノ短キヲ以テ全身ノ血液ヲ冷却スルノ暇ナ
キカ故ナリ昔時皮膚ノ奪温ニ基キ微ニ海水ヲ温メ長ク
窒扶斯患者ヲ浴セシメ偉効アルヘシト信セシモ輓近數

(8)

多ノ經驗ニ由リ全身作用ハ決ノ想像ノ如ク著シカラサルヲ知レリ即チ列氏十八度ノ浴ニ在ラシムルト十五分時ニシテ身體内外諸部ノ温度一致平均スレモ尙ホ體温ノ降ルヲ攝氏ノ一度ニ至ラサルヲ以テ證スルニ足レリ

乙 神經刺戟作用

海水浴ニ在テハ神經ヲ刺戟スルヲ非常ニ強シ蓋シ其刺戟ノ度ハ一ハ皮膚ト海水トノ温度ノ差ノ多少ニ關シ一ハ各人皮膚ノ特異性ニ因リテ各々差異アリ然レモ此特異性ハ今日マテ未ダ人ノ重キヲ置カサル所ナリ
人軀ノ温ヲ感スルハ皮膚ノ衣被セル部ト然ラサル部ト

海

水

浴

海

水

浴

(9)

ニヨリテ一様ナラス成人ノ身體ノ面積ハ總テ平均一六五平方迷ナレトモ人生ノ生活中其裸露スル部ノ四季トナシ朝夕トナシ變換スル周圍大氣ノ寒暑ニ抵觸スルモノハ僅ニ其二十分一即チ八百平方仙迷頭面部及手ニ過キス(獨醫ヒルレル氏曾テ強壯ノ一兵士ニ就キテ測リシニ全面積一、七五平方迷ニシテ頭首ノ裸出部及被髮部ニ両手ヲ合セテ八百平方仙迷ヲ得タリト)他ノ二十分ノ十九ハ生後死ニ至ル迄終始數層ノ導温惡シキ物質ヲ以テ被覆セラル而シテ其被服ノ中ニ含有スル空氣ノ温度ハ平均攝氏三十三度乃至三十六度ヲ示シ外氣ノ寒暖ニヨリ左

海

水

浴

右セラル、極メテ稀ナリ故ニ衣被スル皮膚部ハ常ニ
 畧ホ平等温度ノ空氣ニ圍擁セラル躰表ト衣服トノ間ニ
 存スル空氣ノ温度ハ攝氏五度以上ノ差ヲ生スルヲ稀ニ
 シテ時ニ或ハ是アルモ衣ヲ更ヘ浴ヲ取ル時等ノ只暫時
 ニ過キス故ニ此衣被セル皮膚部即チ全身皮膚ノ大部ニ
 於ケル温度ヲ感スル神經ハ常ニ平均攝氏三十五度ノ温
 度ニ習慣ス故ニ此度變換スレハ即チ神經ノ刺戟トナリ
 其變換速カニシテ身圍大氣ノ温度下降スルヲ甚シケレ
 ハ刺戟愈々強烈ナリ今裸躰ヲ水中ニ投スレハ雷ニ神經
 ナ刺戟スルノミナラス水ハ空氣ヨリ温度ヲ導クヲ強大

海

水

浴

ナルカ故ニ冷却スルヲモ亦遙ニ速カナリトス本邦人ニ
 在テハ衣服ノ制自ラ歐洲ニ異ナルヲ以テ皮膚被袍部ノ
 疆界判然セズ從テ神經ノ感受性ニ至リテモ亦大ニ歐人
 ニ異ナル所アルヘシ
 平均攝氏十五度乃至十七度半(列氏十二度乃至十四度)ノ
 海水ニ浴シテ皮膚ノ衣被部ニ來ル温度ノ差ハ實ニ攝氏
 二十度許ナリ平素三度乃至五度ノ差温ニ慣ル、皮膚ニ
 シテ俄然冷却スルヲ此ノ如クナレハ其刺戟ノ強大ナル
 言チ俟タズ人若シ水ニ入ルノ前豫メ大氣中ニ於テ皮膚
 ナ冷却スレハ此刺戟ノ度ヲ減退シ得ヘシト雖モ若シ急

(12)

海

水

浴

ニ衣ヲ脱シ直ニ水中ニ入ル時ハ刺戟頗ル強シ蓋シ此ニ作用ノ適否如何ハ一ニ其皮膚知覺ノ銳鈍ニ從フモノナレトモ概シテ初浴者ハ皮膚ノ豫冷法ヲ取り海水ニ慣ル、ノ後ニ至テ急ニ脱衣シ直ニ入浴スルヲ可トス海水浴ニ於ケル寒冷刺戟ノ作用ヲ分テ三トス其一 身體ノ表面ニ於テ強ク知覺神經ノ末梢ヲ刺戟シ之ニ因テ又強ク腦中ノ知覺中樞ヲ興奮スルニアリ故ニ全身皮膚ノ強キ冷寒ハ進ンテ冷痛ヲ起スコト或ハ擗シトセス浴醫カ海水浴ノ人身ニ於ケルハ恰モ牛馬ニ鞭撻ヲ加フルカ如シト曰フモノ夫レ之ヲ謂フカ如此強度ノ

(13)

海

水

浴

刺戟ハ一般ノ神經及精神ノ倦怠疲勞所謂諸種ノ神經衰弱症并ニ虛弱及身體各所ノ不全麻痺ニ用ヒテ偉効アリ概シテ海水浴ハ冷水療法ノ適應スヘキ患者ニ應用シテ効アルモノトス然レモ規律嚴肅ニシテ且ツ良醫ノ統治スル病院ノ冷水療法ニ比スレハ海水浴ハ隨意ニ浴温ヲ加減シ一々各人各個ノ稟性ニ應シ各症各個ノ性狀ニ適スルコト能ハス浴者ノ如何ヲ問ハス浴時ノ始終ヲ論セズ大抵同一ノ温度ニ浴セサルヲ得サルノ不利アリ加之人ニ由リ往々海水浴ノ刺戟強キニ過クルカタメ浴者ニ不快ノ感ヲ與ヘ却テ疾病ヲ惹起シ或ハ徒ニ神經ヲ興奮

(14)

海 水 浴

シテ神心不穩及不眠症ヲ起スヲアリ
 海水浴場ニ温浴所ヲ設クルハ蓋シ海水浴ノ一進歩ト謂
 フ可シ本邦ノ海水浴場ニハ概ネ此設アリ茲ニ海水ノ冷
 ト熱トヲ配伍シ寒冷刺戟ヲ増減シ患者ノ稟性ニ應シ漸
 ナ以テ冷水ヲ灌キ皮膚ヲシテ漸ク寒冷ニ慣ル、ノ後海
 水ニ浴スルヲ得ルニ至ラシメハ海水浴場ハ日ヲ逐テ夥
 多ノ浴客ヲ得ルニ至ルヤ必セリ故ニ此點ニ注目シテ一
 層温浴所ニ改良ヲ加ヘ經驗ニ富メル醫師ヲ置キ規律ヲ
 嚴ニシ冷水療法ヲ行ハ、雷ニ海水浴ノ能ク冷水院ト肩
 比スルノミナラス海水ニハ水浴ノ他ニ有力ナル自然良

(15)

海 水 浴

能アルカ故ニ大ニ之ニ優ルモノアラソ
 其二 漸次皮膚ノ神經ヲシテ強度ノ寒冷刺戟ニ慣ラシ
 ムルニアリ吾人ハ通常此ノ皮膚ノ寒冷感覺ヲ鈍クスル
 ノ習慣法ヲ名ク鞏固法ト云フ數週海水ニ浴スレハ能ク
 皮膚ヲ鞏固ナラシムルコト吾人實驗上ヨリ舉證シ得ヘ
 シ即チ毎時同温ノ海水ニ浴スルヲ十回ナレハ初浴ニ比
 シテ寒冷刺戟ノ不快ヲ來スコト著シク減少シ亦浴スル
 一二十回ナレハ殆ト全ク不快ヲ感セサルニ至ルハ人ノ
 屢々知ル所ナリ又身體中裸出セル部ハ衣被セル部ヨリ
 平素寒冷ニ慣ル、カ故ニ之ヲ感スルヲ少キモ此慣習ノ

(16)

海

水

浴

鞏固ニ外ナラス例之ハ平素足袋ヲ穿ツノ足ハ水ニ入ル
 レハ忽チ冷痛ヲ起シテ之ニ堪ヘサルモ舟揖ヲ操ルノ手
 ハ能ク水中ニ在テ敢テ寒冷ノ爲ニ甚シキ不快ヲ感覺セ
 サルカ如シ又冬時顔面ハ一層ノ寒冷ニ堪ユル者ニソ暖
 室列氏十五度ヲ出テ、急ニ寒冷(列氏零下六度)ノ空氣ニ
 當ルモ時ニ風ヲケレハ更ニ何等ノ不快ヲモ感セス皮膚
 ノ衣被部ニ鞏固法ヲ施シテ効驗アルハ衣食ノタメニ雨
 雪ヲ侵シ衣服ノ濕潤スルコト多キ人又ハ病的ノ爲メニ
 皮膚發汗シ易キ等ニ因リ久時不得止身體ノ表面ヲ強ク
 冷却スルノ人殊ニ著シ抑モ海水冷浴ヲ行ヘハ管ニ寒冷

海

水

浴

(17)

ニ應スル皮膚ノ感覺ヲ減殺スル而已ナラスシテ又能ク
 寒胃ニ罹ルノ傾向ヲ減殺スルハ實驗ニ徴シテ晰カナリ
 蓋シ寒胃ニ及ホス作用ノ如何ハ未タ其寒胃ノ何タルヲ
 詳ニセサルノ今日ニ在リテハ固ヨリ之ヲ知ルニ由ナキ
 モ予ハ寒冷刺戟ヲ受クル皮神經ノ慣習ノ他次項ニ説ク
 皮膚ノ筋及脈管ニ及ホス海浴ノ作用及此小冊子ノ主眼
 タル海氣浴ニ於ケル呼吸器粘膜ノ鞏固モ亦寒胃ノ傾向
 ヲ減殺スルニ與リテ力アルヲ信スル者ナリ
 其三 皮膚ノ平滑筋纖維及ヒ全身ノ隨意筋ニ及ホス作
 用ナリ皮膚ノ寒冷ニ觸ル、ヤ弱キモ尙ホ筋質ヲ有スル

海 無數ノ皮膚血管及ヒ毛嚢間ノ皮膚面ヲ收縮シテ蒼白ヲ
 呈シ所謂肌膚ニ粟立(俗ニ鳥肌ト云フ)ヲ來スハ人ノ能ク
 知ル所ナリ(惡寒)其強キニ至テハ收縮進シテ軀幹四肢ノ
 大ナル隨意筋ニ及ヒ其度ニ應シテ或ハ只振顫ヲ來シ(寒
 顫)或ハ不整ノ搖擗ヲ起シ(戰慄)以テ軀内ノ製温作用ヲ催
 進ス此作用アルカ爲ニ皮膚ハ外氣ニ應シテ放温ヲ調節
 スル緊要ノ機能アリ即チ之ニ由リテ大約一半平方迷ノ
 浴 皮表ヨリ多量ノ血液著シク驅逐セラレ靜脈ニ因テ内部
 即チ心肺ニ輸入ス故ニ其皮膚ハ血液ヲ失フ爲ニ蒼白ト
 ナル但シ此貧血ハ輸入動脈枝ノ收縮スル強弱ノ度ニ因

テ輕重アリ血管收縮スレハ血液ヲ皮膚ニ輸送スルコト
 亦減少シ從テ之ヨリ生スル結果ハ諸内臟殊ニ肺、心、腦及
 下腹器管ノ充血並ニ全動脈系統内ノ血壓増進スル者ト
 ス
 此須要ナル作用ニ因リ一ハ平素收縮力ノ甚タ懈怠ナル
 皮膚ノ平滑筋纖維ハ日々收縮ヲ反復シテ鍛練強固トナ
 ル故ニ「デッポアレーモン」氏ハ練習ナル論題ノ演說中直ニ
 之ヲ皮膚ノ平滑筋操練ト名ケタリ寒冷刺戟ニ由リ皮膚
 ノ血管急劇ニ收縮スレハ爲メニ全身又ハ其一部ノ冷却
 チ減少スルハ甚タ見易キノ理ナリ海浴療法ニヨリテ實

際得タル寒胃ニ對スル身軀ノ抗抵力ハ此平滑筋操練ヲ以テ説明スルヲ妥當ナリトス一ハ皮膚ノ血管收縮シテ血液ヲ軀ノ内部ニ驅リ爲ニ内部血液ノ配置ヲ變交シテテ多少心臟ノ右室及左室ノ運營ヲ鼓舞ス蓋シ毎日浴法ヲ反復シテ心筋ノ漸次強大トナルハ之カ爲ナリ海浴ハ斯ク心臟ノ運營ヲ鼓舞スルカ故ニ海浴ヲ施スニ方リ小必注意シ心臟及血管ノ健全ナル者ニ限り浴ヲ許ス可シ若シ否ラオシテ血管(粉質變性硬變動脈瘻)若クハ心臟筋質(萎縮擴張脂肪變性脂肪心)ノ變性アルカ或ハ心臟辨膜ニ欠損アル者海浴ヲ取ルトキハ内出血(卒中)又ハ心臟麻

痺ニ因テ頓死スルコトアリ是レ人ノ往々見ル所ニシテ常ニ注意ヲ怠ル可カラズ皮膚ニ及ホス寒冷刺戟ノ第四ノ作用トシテ茲ニ掲ク可キモノハ以上論シタル作用ノ後作用ナリ即チ毎時痙攣狀ノ收縮ニ伴フ皮膚血管ノ弛緩擴張是ナリ皮膚ハ之ニ因リテ血液ニ富ミ潮紅シテ爽快ナル温暖ノ感ヲ覺フ毎浴後ニ起ル此變化ハ各人各異或ハ皮膚感覺ノ銳純又ハ寒冷刺戟ノ長短ニ因ル故ニ浴後ノ皮膚潮紅ハ浴ノ適否ヲ判定スルノ良尺度トス即チ浴後衣ヲ着クルノ際若クハ衣ヲ着ケタル後直ニ爽快ノ温覺ヲ皮膚ニ來スハ浴ノ

(22)

海

水

浴

適セル者ナリ之ニ反シテ着衣ノ後長時間寒覺及ヒ皮膚蒼白ノ持續スルハ浴ノ適セサル者ナリ如斯ハ海水ノ寒冷刺戟強キニ過シルカ又ハ在浴ノ長キニ過シルカ或ハ又浴者ノ性質感覺過敏ニシテ海水ノ寒冷刺戟ニ堪ヘサルニ由ルカ故ニ浴後直ニ粗糙ノ手巾又ハ浴中ヲ以テ強ク皮膚ヲ摩擦シ風ナキノ地ヲ求テ散歩シ力テ血管擴張ノ起ルヲ促スヘシ浴後皮膚血管ノ擴張ヲ促サンカタメ亞爾箇保兒ヲ飲用スルノ習慣アレトモ前者ニ比スレハ稱用ス可キ者ニアラス

此血管擴張ノ作用ハ吾人カ常ニ慣用スル他ノ皮膚刺戟

(23)

浴

水

海

(芥子、芫菁、沃度丁幾、樟腦精、按摩)ト同一ナリ只海水浴ニ因テ來ス所ノ皮膚潮紅ハ芥子等ノ如ク強カラスト雖モ其作用全身一、六平方迷ニ普ク且ツ毎日之ヲ反復スルヲ以テ異ナリトス此皮膚血管擴張ハ深部ノ器管ニ如何ノ作用ヲ來スヤハ未ダ之ヲ明言シ能ハスト雖モ其皮膚血管ニ及ス所ノ作用ニ因リテ關節、筋、腱、大淋巴腺及ヒ肺腔(胸腔、腹腔)ノ滲出物又ハ沈着物(皆病的變化ナリ)ノ消散スルハ掩フヘカラサルノ事實ナリ

皮膚ニ及ホス寒冷刺戟ノ用ハ以上ノ縷述ノミヲ以テ未ダ盡セリトセス尙他ニ數多ノ作用アリ即チ延髓若クハ

海

水

浴

脊髓ノ媒介(反射)ニ因リテ内臓器官ニ及ホス者はナリ此
 内臓ニ及ホス作用中吾人カ了知セル器官ハ今尙ホ二三
 ニ止マル即チ其最モ著シキハ呼吸器ニシテ殊ニ横隔膜
 ナ然リトス今試ニ水中ニ入レハ其寒冷刺戟ノ臀部及ヒ
 腰部ニ達スルヤ痙攣狀ニシテ不整ノ吸息ヲ起ス若シ其
 刺戟強ケレハ遂ニ深吸息ニ於テ呼吸ノ停止ヲ來ス又屢
 腹内臓器ノ痙攣狀收縮ヲ來シ強キ痙痛ヲ起スコトアリ
 其甚シキニ至テハ冷足浴ヲ長ク持續シ内臓收縮ノ度進
 ンテ遂ニ膽汁ヲ吐出スル者(兵卒游泳生徒)アリハ或又氣候
 清涼ノ時外出スルカ又浴前衣ヲ脱スルノ時或ハ浴後衣

海

氷

浴

ヲ着クルニ當リ寒冷刺戟ノ泌尿器殊ニ膀胱ニ作用シテ
 頻リニ尿意ヲ催スコトアルハ人ノ能ク知ル所ナリ夫ノ
 家犬主人ノ外出ニ伴フ時頻リニ排尿スルモ亦タ好證タ
 リ脾臓モ亦皮膚ノ寒冷刺戟ニ因リ收縮シ以テ灌水又ハ
 氷嚢ヲ貼セシ時ノ如ク肥大ノ消失スルヲ見ル(フロイリ
 ー氏「ホキン氏」)
 此ニ因リテ之ヲ看ルニ海水冷浴ノ人身ニ及ホス作用ハ
 甚タ多々ニシテ若シ經驗アル浴醫ニ頼テ撰擇應用セハ
 健體ハ勿論病者ニモ亦大ニ其効アルヘキヲ信ス又以上
 ノ所説ニ基キ現今世間ニ冷浴ハ專テ奪温ノ目的ヲ以テ

高熱ノ室扶斯患者ニ用ヒテ奏効アル可シトノ勢力ヲ有
ナル妄説ヲ打破スルニ足ラノ乎

第二章

海水ノ成分

海水ハ河湖ノ甘水ト異ナリ頗ル多量ノ鹽分ヲ含有ス就
中格魯兒抱合體(格魯兒那篤留謨)ニ富ミ其味鹹シ其含鹽
量大海ニ在リテハ三乃至四半(プロセント)海水百瓦中鹽
分三乃至四半瓦ヲ含ム以下之ニ倣之ニシテ地中海紅海
ニ如ク海水ノ蒸發多クシテ甘水ノ流入ニ勝ツ時ハ其量
增多ス之ニ反ノ黑海及ヒ獨乙東海ノ如ク甘水ノ流入海

水ノ蒸發ニ勝ル時ハ海水鹽分ヲ含ムコト少シ凡ソ鹽分
含有ノ多少ハ地勢ノ位置形狀及ヒ潮流ノ方向ニ因テ同
一ナラス獨乙ノ如キハ北ヨリ南スルニ從ヒ海水ノ含鹽
量漸ク增多シ和蘭及ヒニユーセルランド沿海ノ浴場ニ
至リテハ殊ニ甚シク三五六プロセントヲ示セリ海水ノ
主成分ハ「フォルヒハンメル」氏ノ測定ニ從ヘハ其百分中ニ
獨乙北海(ユットランドノ海岸ニ於テ) 獨乙東海(瓊瑪ノ海岸ニ於テ)
格魯兒那篤留謨 二、四八四瓦 一、三〇八瓦
格魯兒加留謨 〇、一三五瓦
格魯兒麻留涅叟謨 〇、二四二瓦 〇、一九五瓦

海

水

浴

炭酸麻偏涅叟謨 〇、〇二五瓦
 硫酸麻偏涅叟謨 〇、二六六瓦
 〇、二〇〇瓦
 格魯兒加爾叟謨 〇、〇〇七瓦
 硫酸加爾叟謨 〇、一二〇瓦
 〇、〇三四瓦
 全量 三、一八七瓦
 一、七六九瓦
 就中鹽酸鹽類 二、八六一瓦
 一、五一〇瓦
 海水中ニ含有スル其他ノ化合物ハ其量甚少ク海水浴ノ
 効績トノ見ルヘキノ價直ナシ只海水ノ飲用療法ニ在テ
 僅カニ其力ヲ致スコトアルノミ現ニ獨乙北海ノ南部オ
 ストエソデニ於テ此飲用療法ヲ行ヘリ是レ其海水ニ沃

浴

水

海

度ノ痕跡或ハ鐵ノ痕跡アルノ報告ニ基因セシモノナレ
 凡何レノ所ニ於テモ他ニ其類例ナシ人或ハ海水ニ下劑
 ノ効アルヲ喋々スレモ是レ或ハ食鹽ヲ含ムノ多キニ出
 ツルニ非サルナキ乎其他礦成分中殊ニ人ノ注意ヲ惹ク
 モノハ沃度那篤留謨ニシテ往々「リール」中ニ〇、〇〇
 九瓦ヲ含ムコトアリト云フ然レトモ飲用療法トノ顯著
 ナル沃度那篤留謨ノ醫藥的作用ヲ望ムニハ幾百「リール」
 ルノ海水ヲ飲マサル可ラス豈能ク行フコトヲ得ンヤ世
 間藥泉ト稱スル井泉ノ分析表中ニ見ル効能書ノ類ニ過
 キサルノミ海水ニ溶解シテ存スル有機物ハ專ラ海屬

動物ノ排泄物及ヒ動植物ノ死解セルモノニ起因ス蓋シ海水ノ蒸發スル際一種固有ノ臭氣ヲ感スルハ即チ此有機物ナリ殊ニ靜穩ノ港灣内ニ在テ著シトス又海草ノ繁茂及ヒ下級動物、海燕、海月ノ繁殖甚シキカ爲メニ浴者ニ不快ノ感覺ヲ與ヘ或ハ殆ント浴ニ堪ヘザラシムルコト勘シトセス是レ吾人ノ經驗セル所ナリ

往昔海水中ニ存在スル食鹽及類似ノ物質ハ皮膚ヲ竄透シテ血中ニ入り以テ能ク内臟器官ニ作用チ及ホスモノナラント信セシモ是レ全ク浴治法ノ憶説ニシテ今日學術上ノ精査ニ由レハ決シテ皮膚ヨリ其内臟ニ達シ作用

スルモノニ非スシテ只單ニ皮膚ニ及ホス純粹ノ局所作用タルニ過キス抑モ海水ハ其含鹽ノ多少ニ由リテ性狀ヲ變シ其量多クレハ一ハ重量ヲ増シ濃厚トナリ一ハ導温及保温ノ力ヲ増スノミナレモ其導温及保温ノ力ヲ増スハ太ク僅少ニシテ只短少時間ノ海水冷浴ニ際シ著シク其保温作用ヲ幫助スルノミ故ニ鹽分ハ唯ニ全ク器械的ニ作用スルニ過キスシテ彼ノ浴後體ヲ濕ホス所ノ水分蒸散スレハ鹽分ハ結晶シテ皮膚ノ表面又ハ皺襞中ニ留マリ以テ一種ノ異物トナリテ皮膚ノ神經末梢及血管ヲ刺戟スルコト恰モ沃度丁幾チ塗布シテ其亞爾爾個保兒分

蒸散後ニ貽ル沃度結晶ノ刺戟作用ト同一ナリ但シ食鹽ノ結晶ハ骰子形ナルカ故其皮膚ヲ刺戟スルコト沃度又ハ撒里矢兒酸ノ針狀結晶ノ如ク強カラズ然ノ其鹽分ノ刺戟作用ニ對シテ更ニ伴フ所ノ作用ハ温浴又ハ冷浴ノ際曾テ乾燥セシ皮膚表面ヲ柔軟ニシ或ハ皮膚ノ臍脂ヲ去リ以テ鹽分ヲシテ能ク皮膚ニ密接セシムルノ効アリ結晶體撒里矢兒酸沃度加留謨硼酸等ノ亞爾個保兒溶液ハ能ク他ノ同シ強度ヲ有スル水溶液ヨリモ強ク皮膚ヲ刺戟シ又温鹽水ハ強度同一ナルモ冷鹽水ニ比シ其刺戟力強キモ皆同一ノ理ナリ

人若シ腕ヲ露出シ之ニ五「プロセント」ノ食鹽溶液ヲ塗リ之ヲ乾ストキハ忽チ皮膚ニ輕度ノ癢癢及温度ノ増加ヲ感シ其作用大約一時間持續シ又他腕ニ比スレハ潮紅スルヲ見シ「ヒルレル」氏曰ク余カ嘗テ風アルノ日短艇ヲ驅テ北海ニ航セシニ水煙ノ爲ニ予カ顔面手及衣服悉ク濡潤シ同時ニ顔面及ヒ手ハ頗ル紅チ潮シ且ツ著シク熱スルヲ覺ヘ數時間ノ後皮膚既ニ乾ケハ之ニ沈着セル食鹽結晶白粉狀ヲ成スヲ見ル拭フテ是ヲ取り味フニ甚ク鹹キヲ覺フ此經驗ハ實ニ予チノ海水浴及食鹽浴ノ食鹽作用ノ究明ニ從事セシメタリト

寒冷刺戟ノ後作用トシテ浴後全身皮膚血管ノ擴張ヲ來
 スノ理由ハ曩キニ詳悉セシ所ナルカ今述ヘタル鹽分ノ
 作用モ亦與リテ大ニ力アルヲ知ル可シ
 又浴後直ニ手巾ヲ以テ軀ヲ拭フコトナク浴衣ヲ軀ニ纏フ
 テ自然ニ其水分ヲ蒸散セシメハ皮膚ノ刺戟更ニ強キヲ
 致ス是レ前條述フル所ノ含鹽類作用ト同一ノ理ナリ又
 吾人ガ皮膚ニ就テ經驗シタル如クセハ尙一層ノ刺戟作
 用ヲ増スコトヲ得即チ人身ノ皮膚ハ臍脂ノ爲メニ水ヲ排
 シテ容易ニ潤ホヒ難ク從テ鹽水ノ竄入スルコトモ易々
 ナラサルカ故ニ浴水ニ曹達ヲ加ヘ(或ハ石礫ヲ用ヒ浴ス

ルノ際強ク皮膚ヲ摩擦スレハ甫テ其作用ヲ完フスルコ
 トヲ得ヘシ但シ成人ノ一浴平均二百五十乃至三百リ
 テルノ水ニ二百五十瓦ノ曹達ヲ加ヘ曹達含量〇、二「プロ
 セント」トナサテ適當トス
 グトル浴(天然温食鹽浴)又ハ海水温浴ハ右ノ理由ニ因リ
 テ食鹽ノ作用冷浴ヨリ強シ蓋シ海水温浴ハ之ヲ推究ス
 レハ只一種ノ食鹽温浴ニ過キス例ヘハ獨逸北海ノ温浴
 ハ中等強ノ食鹽浴ニシテ二半乃至四「プロセント」ノ食鹽
 ヲ含ムニ相當シ東海ノ温浴ハ一、二乃至一、八「プロセント
 ノ食鹽ヲ含有スル弱度ノ食鹽浴ニ相當セリ然レモ海水

浴場ノ温浴所ニ於テハ能ク人工ニ海鹽ヲ浴場ニ加ヘ容易ニ其作用ヲ旺盛シ最強ノ天工鹽泉ト均一ナラシメ得ルハ予カ言ヲ俟タサルナリ

食鹽ノ皮膚ニ及ホス作用ハ天然湧出ノ鹽泉ト人工ニ製シタル食鹽温水トニ係ラス其効常ニ同一ナル者ナリ故ニ予ハ信ス海浴場ニ加フルニ温浴場ヲ以テスルハ當ニ冷水院ト其作用ヲ競フ而已ナラス又天然ノ鹽泉浴場(温食鹽浴)ト其業ヲ爭フヲ得ルニ至ラン

第三章

海水動搖ノ強弱

海水動搖ノ浴効ヲ幫助スル所以ノ者ハ一定時間ニ於テ不斷代謝スル多量ノ海水ヲ浴者ノ身體ニ觸レシムルニアリ此作用ハ即チ奪温ト寒冷刺戟トナシテ旺盛ナラシムルノ價値アル者トス

第一ノ作用即チ奪温作用ヲ知ランカ爲ニ「ヒルレル」氏ハ左ノ試験ヲ施セリ則チ茲ニ一個ノ硝子嚢即チ其内容一、四三「リ」テ「ル」ニシテ其表面八〇八平方仙迷ノモヲ撰ミ之ニ攝氏四十五度ノ温湯ヲ充テ驗温器ヲ挿メル護謨栓ヲ以テ鎖サシ驗温器ノ水銀球ヲシテ恰モ嚢ノ中央ニアラシム今此嚢ヲ九「リ」テ「ル」ノ浴水中ニ沈メテ其頸部ニ

及ハシメ頸部ニ結ヘル絲ニ依リ一秒時間〇、五メートルノ平等速力ヲ以テ之ヲ水中ニ動搖セシムレハ儼中ノ水其攝氏四十四度ヨリ三十六度ニ降ルカ爲メ費ス所ノ時間ハ左表ノ如シ

浴水ノ温度	浴ノ靜ナル時	浴ノ動搖スル時(速力〇五メートル)
十八度 攝氏	五分二十秒	三分五十秒
二十度	六分二十五秒	四分八秒
二十二度	七分十六秒	四分二十秒
二十四度	七分五十一秒	四分五十秒
二十六度	八分二十五秒	五分三十秒
二十八度	九分三十秒	六分十五秒

故ニ浴ノ温度ニヨリ多少ノ差異アレトモ動搖セル浴水

ハ靜置セルモノニ比スルニ速力〇、五メートルナレハ其奪温スルノ多キコト大約三分ノ一(精算スレハ十一分ノ四)ナリトス

同一ノ温度ニテモ河浴フルースバートノ涼キ覺ユルコトワシネンバート槽浴ニ勝ルハ一ハ其水ノ動靜如何ニ由ルノミウキルレンバート波浴又ハスツルツバート瀑浴ノ河浴ニ勝ルモ亦同一理ナリ若シ旺熱ノ室扶斯患者ニ冷浴ヲ用ユルトセハ同上ノ理ニ由リ流水浴ハ温キ奪フコト槽浴ヨリ多シ槽浴モ亦患者身圍ノ水ヲ不斷動搖セシムレハ靜置スルヨリモ温キ奪フコト多キノ理ナリ

海水動搖ノ殊ニ緊要ナルハ其寒冷刺戟ヲ旺盛ナラシム

(40) 海 水 浴

ルニアリ静止セル水浴ハ皮膚ニ及ホスノ寒冷刺戟均一ニシテ随テ身圍水層ノ暖マルニ從ヒ漸次微弱トナレモ動搖セル水浴ニ在テハ其暖マリタル水ハ動搖ニヨリ身圍ヲ離レテ新冷水之ニ代ル如斯ノ始終同強ノ寒冷刺戟ヲ以テ浴ヲ畢ルモノナリ然レモ吾人此動搖浴中ニ在リテ漸次其刺戟ノ減退スルヲ感スルハ皮膚ノ冷却スルコト強ケレハ從テ皮膚ト水トノ間ニ於ケル温度ノ差減少シ以テ刺戟ヲ感セサルニ因ル故ニ寒冷刺戟ハ浴ノ當初ニ於テ最モ強ク夫レヨリ漸々ニ其強度ヲ減スルヲ常トス但シ静止浴ハ動搖浴ヨリモ刺戟ヲ減スルコト速カナリ

(41) 海 水 浴

而ノ皮膚神經末梢ノ所在部(上皮)マルヒ「氏網眞皮」冷却シテ其温度浴水下殆ント平均スルニ至レハ寒冷刺戟皆無トナリ不快ノ感覺消失シ甫々テ冷水療法ノ用ヲ爲サ、ルニ至ル此上尙浴ヲ持續スレハ徒ニ只體温ヲ脱失スルノミニシテ毫モ益スル所ナシ故ニ海水ニ浴スルノ時間ハ水ノ皮膚ニ觸レテ不快ノ感覺ヲ忘ル、ニ至ルチ適度トシ直ニ浴ヲ出ルチ可トス浴ヲ取ル大約十回即チ浴者少ク海水ニ慣ル、ニ至レハ概ネ二分時ニシテ出浴ノ期ニ達スルヲ常トス
海水ノ動搖ハ三様ニシテ一ハ海流一ハ潮汐一ハ風ノ爲

(42)

海

水

浴

ニ起ル波濤ナリ獨乙東海及北海岸ノ浴場ハ主トシテ潮
 汐ト波濤ニ依ルト雖モ東海ニハ潮汐實ニ弱クシテ只波
 濤ノミ獨リ其力ヲ逞フス故ニ東海々上風アレハ只波濤
 ノミ而シテ海水移動ノ強弱ハ固ト風勢ニ從フモノナル
 カ故ニ海上風ナケレハ東海ノ海面平坦ニシテ鏡ノ如ク
 湖水ニ彷彿タリト雖モ北海ニ在テハ之ニ異リ六時潮ス
 レハ六時汐シ風アレハ之ニ波濤加ハリ海水常ニ動搖シ
 テ靜止スル時ナシ其島嶼及大陸ノ沿岸ハ滿潮ノ時動搖
 最モ強キカ故通常此時ヲ以テ浴ヲ取ルノ期トス
 獨乙ノ北海岸ハ四浴月ト稱シテ六、七、八、九月ノ間ハ主ニ

(43)

浴

水

海

海上ヨリ風ヲ陸地ニ送り波濤ハ平均東海岸ヨリ強シ故
 ニ海岸ノ形勢モ亦正ニ波濤ヲ強クスルニ與リテ力アリ
 凡ソ海岸ノ形不正ニシテ岬灣ニ富ム所ハ波濤弱ク海岸
 平カニシテ眞直ナル所ハ波濤強シトス海岸ノ最モ平直
 ナル者ハ獨乙ノ北海岸ニ於テ只々「シルト」島アルノミ島
 ハ狹クシテ長ク其西岸直線ヲナシ延テ十「キロメートル」
 ニ亘リ砂埠一帶高ク積テ海風ニ衝リ一點ノ遮キル所ナ
 ク波濤強大ニシテ他ニ其比ヲ見ス其滿潮ニ當テヤ激浪
 岸ヲ打テ白鷗無數波間ニ出沒シテ浴客ヲ歡迎スル如ク
 洋蕩清涼ニノ風景絕奇天然ノ眞美ヲ供ヘタル最好浴場

タリト云フ本邦ニ於テモ亦遙カニ之ニ優ルノ浴場アル
 ヘシト雖未ダ其精査ヲ遂ケス故ニ記ノ以テ他日ノ參考
 ニ供ス
 海水波動ノ速力ハ未ダ詳ニ之ヲ測リシモノナシト雖モ
 一目シテ其空氣ノ波動速力ヨリ著シク少キヲ知ル「ヒル
 レル」氏ノ測定ニ據レハ獨乙北海岸ノ怒濤モ尙且一秒時
 ニ二乃至四「メートル」ノ速力ヲ超ユスト
 之ニ依リテ是ヲ觀レハ世人波濤ハ皮膚ニ強キ器械的刺
 戟ヲ致スベシト信セシハ其正鵠ヲ誤レルヲ知ルベシ浪
 荒キ海水中ニ立チ滑カナル背ヲ以テ其突キ來ル激浪ヲ

受クルモ僅カニ水ヲ灌キ若シクハ水ニ潜クルノ感ヲ來
 スノミ海水浴ヲ論スル書中著者カ切リニ波濤ハ皮膚ヲ
 鞭撻スヘシナト、卓上ノ想像ヲ畫ケトモ只是レ一ノ妄
 想タルニ過キス故ニ水浴ノ器械的ニ皮膚ヲ刺戟シテ稍
 其効ヲ見ルハ只瀑浴及灌溉浴アルノミ波濤ハ直ニ皮膚
 刺戟トシテハ効少キモノナレトモ元ト幾分カ冒險ノ業
 ナルカ故ニ浴ニ在ルノ間ハ自己ノ安泰ヲ圖ルニ意ヲ注
 キ神ヲ勞シテ後ヲ無難ニ浴ヲ畢フレハ心ニ凱歌ヲ唱フ
 ノ感ヲ起シ能ク浴者ニ無形ノ刺戟ヲ與フルコトヲ忘ル
 べカラス故ニ自ラ信スルコト少ク氣力衰へ敢爲ニ乏

キノ人此波濤ニ浴スレハ漸次快復シテ復タ勇敢ノ氣ヲ帶ルニ至ルハ心理學上是認スル所ナリ

第四章

在浴時間ノ長短

海浴ノ際寒冷刺戟ノ度甚タ強キニ過キ或ハ皮膚ノ冷却ニ伴ヒ寒冷刺戟忽チ減退スルトキハ其在浴ノ時間ヲ短縮スヘシ(二三分時)此時間ヲ超ヘサルハ最モ身體ニ適シテ益アリ若シ在浴時間長キニ過クルトキハ皮膚ノ溫度ヲノ長時間低度ニ持續スルト寒冷徒ニ深部ニ進透スルトニ由リ却テ爽快ヲ變シテ身體ノ疲勞氣力ノ減退ヲ來

シ恰モ病後ノ感アラシムルモノトス凡テ吾人ノ用ユル刺戟ニハ皆一定ノ限界アリ若シ用ユルコト其度ヲ超ユレハ善良有効ノ作用モ變シテ却テ有害ノ結果ヲ見ハスモノニシテ浴醫タラン者ハ能ク其然ルヲ知ルヘシ獨乙衛生議員「ドクトル、エム」氏ハ三十年間ノ經驗ニ據リ海水浴ノ初回ハ三波ニテ足レリ之ヲ超ユレハ害アリト云ヘリ一般ニ言フ時ハ五乃至六波ノ後浴ヲ出ツルヲ可トス浴醫ノ經驗ニ據ルニ海水浴ノ度數ハ一療養週間ニ二十回極メテ多キモ尙三十回ヲ越ユベカラサルモノトス

第五章

海水浴結論

(48)

水浴ノ要件中海水浴ノ効用ニ最モ與リテカアルモソハ
第一ニ論シタル海水ノ寒冷(列氏十二度乃至十五度)ナリ
然レモ海水浴ノ寒冷刺戟ハ強キニ過キ且ツ増減スルコ
ト能ハサルカ故ニ患者治療上ノ需用太々狹隘ニシテ加
フルニ四季ヲ通シテ用ユル能ハス且ツ患者ノ稟性疾病
ノ狀況ニヨリテハ或ハ適應セサルコトアルノ不利アリ
東海ト北海トハ此點ニ於テ大差ナシ只北海々水ノ温度
ハ東海ノ温度ニ比スレハ等一ニシテ昇降少ナク且ツ列
氏十二度ヲ以テ初浴ニ適スル最低度ナリトスレハ北海

海 水 浴

(49) 海 水 浴

浴場ニ於テハ一般ニ東海(六月)ヨリ遅ク(七月)浴ヲ初メ東
海(八月)下院ヨリ長ク持續九月下院スヘシ蓋シ東海ニ比
シテ三四倍多キ北海々水含鹽量ハ只海水浴ノ直後作用
(皮膚潮紅)ヲ盛ニシテ其寒冷刺戟ヲ助クルノミ
之ニ反シテ海水温浴ニ於テハ其含鹽量大ニ効ヲ奏シ其
主ナル性質温度并含鹽量ニ至テハ食鹽浴ト異ナル所ナ
シ北海ト東海トニ於ケル食鹽含量ノ差并ニ海水浴ト食
鹽浴トノ含鹽量ノ差ハ浴水ニ海鹽ヲ加ヘテ容易ニ等一
スルヲ得ヘシ但シ皮膚ニ最強ノ食鹽作用ヲ及ホスモノ
ハ〇、一プロセントノ曹達ヲ含ム所ノ曹達海水浴又ハ曹

達食鹽浴トス

東海ヨリ強ク且平等ナル北海々水ノ動搖ハ身圍水層ノ不斷交代ニヨリテ海水浴ノ皮膚ニ及ホス寒冷刺戟ヲ持長セシム世人ノ波濤ニ強キ器械的刺戟(皮膚ノ打撲及鞭撻)アリトスルハ誤謬ニ非サレハ必ス過稱ノミ然レモ激浪怒濤ノ海水中ニ立ツノ危険ハ吾人ノ五官及筋肉ヲ刺戟興奮スルヲ通常ノ波濤ヨリ強キコト明カナリ

在冷ノ時間ハ浴者ノ意ニ任スト雖モ寒冷刺戟ノ強烈ナル爲メ可成短分時ヲ取ルヲ常トシ又浴數モ可成度數ヲ限制スルヲ良トス

第二編

海氣浴

海氣ハ即チ疾病ヲ治療スル所ノ醫藥トシテ看ルヘキ者ニシテ浴者ノ海浴場ニ在ルヤ日トナク時トナク不斷之レカ療養ヲ受クルモノナリ唯其作用朝夕ノ差ニヨリテ強弱アリ蓋シ該海氣ハ一種特別ナル性質ヲ有スルカ故ニ從テ亦其作用モ一種固有ニシテ大陸ノ浴場若クハ養病所ニ於テハ曾テ其比類ヲ見サルナリ故ニ予ハ追次海氣浴特種ノ性質ニ就テ詳述セントス

海氣浴ノ性質ハ海水浴ト同シク別チテ四類トス即チ第(51)

一空氣ノ温度第二空氣ノ成分第三空氣動搖風ノ強弱及其方向第四在浴時間ノ長短之レナリ

第二章

海氣ノ温度

海氣ノ温度ヲ昇降セシムルハ海水ノ温度ヲ昇降セシムルト其理同シ地球ノ位置ニ關スルノ外又其地ノ海水大ニ力ヲ添加シ海氣ヲシテ他ニ異ナル所アラシム蓋シ大陸ハ海面ニ比シ太陽ヨリ暖ヲ探ルコト遙ニ早ケレトモ其温ヲ大氣中ニ放散スルモ亦海面ヨリ速カナリ故ニ同經緯度ニ於テハ夏日大陸ノ大氣ハ海上ノ大氣ヨリ温

ヲ取ルコト早ク且ツ一般ニ暖ナリ之ニ反シテ秋冬ノ候ニハ大陸ノ大氣海上ノ大氣ヨリ冷却スルコト速ニシテ且強シ而シテ大陸ハ海上ニ比スレハ概ネ夏暑クシテ冬寒シ又同緯度ニ於テ夏冬ノ來往海上ヨリハ大陸ニ在テ速ナルハ蓋シ之カ爲ナリ又日中及月中氣温ノ變動モ海上ハ大陸ヨリ遙ニ少シ是レ養病所ニ在テハ極メテ緊要ノ事タリ
以上述フル所ハ海上ノ氣候ト大陸ノ氣候ノ差異ニ係ハレリ
凡ソ浴場ハ多少大陸ヲ離ル、所ニ於テハ海上氣候ノ拔

群ニ佳良ナルヲ見ル即チ彼ノ海中ニ獨立スル島嶼ハ皆是ナリ之ニ反シテ海岸ニアル所ノ浴場ハ半ハ海ニ瀕シ半ハ陸ニ賴ルカ故ニ風ノ方向ニ由リテハ或ハ陸地ノ氣温ヲ受ケ或ハ海上ノ氣温ニ浴セサルヲ得ス如斯海岸氣候ハ不順ニシテ變動シ易キモノナリ獨乙ノ北海浴場ハ總テ島嶼ニシテ平均大陸ヲ離ルコト一「マイル」若クハ以上トス東海(獨乙)ハ之ニ反シテ全ク海岸ニ浴場ヲ設ク故ニ其灣内ニ在ルモノ、如キハ大陸ニ接スル只一面ノミ是レ獨乙東北兩海ノ大ニ異ナル所以ニテ其海氣浴ノ効果ヲ判定スルニ足ル即チ北海浴場ノ氣温ニハ灣流

ノ力ヲ與フルコト甚カラス此灣流ハ人ノ能ク知ル所ニシテ墨牙灣内ニ於テ赤道直下ノ日光ニ暖メラレ東北ニ向テ斜ニ大西洋ヲ横リ歐洲ヲ衝キ英蘭土、斯格蘭土、及諾威ノ西岸ニ沿フテ北方ノ「ルドカッ」ニ達シ以テ此等ノ諸國及ヒ歐洲西部ノ全土ニ比較的暖和ナル冬日ヲ作為スルモノナリ獨乙國ノ西風及西南風ノ暖和ニシテ濕氣ニ富ムモ亦是カ爲ナリ人ノ此灣流ヲ名ケテ歐洲ノ温水暖室器ト云フ亦其理ナキニ非ス獨乙北海島嶼ハ其西ニアルノ故ヲ以テ灣流ノ影響ヲ蒙ルヲ遙ニ東海ヨリ多シトス

海 氣 浴 (56)

歐洲中部大陸ノ人士カ暑ヲ避ケ涼ヲ納ル、ニハ先ツ海水浴場ニ如クモノナシ内地ノ村落及山中ニシテ人ノ絶賞スル避暑納涼地モ盛夏ノ際ハ往々暑氣甚シク土地非常ニ乾燥シテ塵埃多ク到底海水浴場ニ比スレハ企テ及フ所ニ非ス又海水浴場ヲシテ氣候療法地ニ宛ルモ大陸ノ養病所ニ勝ルコト論ナシ是レ都府ノ養病所ヨリ氣温平等ニシテ日中温度(海水氣候)ノ差遙カニ少キニ因ル海水浴場ノ空氣ハ此ノ如キ性質ヲ有スルカ故ニ空氣ノ變動ニ感シ易クシテ寒胃ニ傾向セル人即チ虛弱、痼疾、小兒、快復期ノ病者、僂麻質斯、呼吸器ノ加答兒等能ク之ニ適シ

海 氣 浴 (57)

且効アリ
今獨乙北海「フェール」ノ「ウィーク」ニ就キ一例ヲ舉ケテ朝八時ヨリ夕十一時ニ至ルマテ即浴客ノ海岸ニ立ツカ然ラサルモ多ク家外ニアル間ニ於ケル日內空氣温度ノ變動ヲ左ニ示ス

千八百八十年		
	最少差温	最大差温
七月	一、二	五、五
八月	一、〇	六、〇
九月	一、〇	四、〇
	中數温	
七月	三、三	
八月	三、七	
九月	二、八	

海浴場氣温ノ變動其レ如此少キカ故ニ平素風雨ニ衝ラ

サル極メテ柔弱ナル人ノ皮膚及粘膜モ亦能ク十分之ニ慣レ寒胃ニ罹ルノ危険更ニアルコトナシ故ニ世人ハ室内ニ塾居セズシテ海岸ニ出テ清淨新鮮ニシテ有効ナル海氣ニ浴セシメンコト希望ニ堪ヘサルナリ

第二章

海氣ノ成分

第一海上空氣ノ瓦斯分ハ殆ト大陸空氣ノ瓦斯分ニ相同シ其炭酸含量ニ多少ノ變動(減少)ハ之アレトモ別ニ浴者ノ健康ニ利害ヲ及ホス可キニ非ス又海氣ノ氣壓ハ陸氣ヨリ大約五ミリメートル高ク且ツ一方立メートル中ニ

含有ナル酸素ノ量モ幾分カ多キモ「ア、ブレソケル」氏及ヒ「ゲッセルト」氏ノ説ニ從ヘハ肺臟ヨリスル所ノ酸素攝取量ニハ影響ヲ及ホスコトナシト又海水蒸發ノ際阿巽^{オゾン}ヲ生ナルカ故ニ陸氣ニ比スレハ海氣ニハ阿巽ヲ含ムコト稍多ケレ^凡六十二ト四十五ノ比亦酸素ト均シク別ニ損益ナカルベシ然レ^凡海氣中ニ含メル阿巽ノ呼吸器粘膜ニ局所作用ヲ爲スノ説ハ排斥スル能ハス殊ニ粘膜ノ腐敗性疾患ニ海氣ヲ用ユレハ經驗上其効アルヲ見ルナリ是レ其効特リ阿巽ノミニ非シテ以下論スル所ノ海氣外ノ性質モ亦與リテ大ニカアルハ疑フヘカラサルナリ

其他海氣百瓦中七十五瓦若クハ尙多量ヲ占ムルハ水蒸氣ニシテ其含量唯島嶼浴場ニ於テノミ大約等一ナルヲ得レトモ海岸浴場ニ在テハ濕氣ノ含量全然風位ニ關シテ變動極リナシ然リ而シテ溫和且ツ水蒸氣ニ富ムノ空氣ハ皮膚及ヒ呼吸器ノ粘膜ニ作用シテ爽快ヲ感セシムル者ナリ即チ皮膚ノ乾燥ヲ妨キ以テ之ヲ柔軟ナラシメ呼吸器粘膜ハ之ニヨリ滋潤滑澤トナリ其加答兒ニ方テハ病的ノ分泌及咯痰ヲ輕快スレモ純然タル陸地ノ風ハ之ニ反シテ濕氣ニ乏シク且ツ寒冷ナルカ故ニ皮膚及粘膜ヲ乾燥シ皮膚ハ因テ脆弱トナリ裂隙(冬日)ヲ生シ易ク鼻

腔喉頭及氣管ハ乾涸シテ咳嗽ヲ促シ咯痰ヲ難カラシム又風位ノ急變スル時ハ蒸發旺盛シテ寒冷俄ニ加リ以テ呼吸器粘膜ノ加答兒ヲ喚起スルコト多シ故ニ其性劇烈ナル北風ハ寒胃、咳嗽、頸痛、嘔吐ヲ發スル原因トシテ人ノ恐ル、所ナリ故ニ肺病又ハ呼吸器ニ慢性加答兒アルノ人ハ常ニ海上若クハ海岸ノ最モ身ニ適スルヲ覺ユ殊ニ其空氣ノ氣温高キ所ニ於テ然リトス

諸多ノ海浴ニ關セル報告中ニ海上空氣ハ鹽分ヲ含ミ之ニヨリテ其作用ヲ増盛ストノ說アリ又甚シキハ海氣中ニ鹽分及ヒ「プローム」沃度ヲ含ム殊ニ海波ノ荒キ時ニ然

リト云フ然レ此說全ク誤謬ニアラサレハ大過ナリ常ニ
 波濤ノ甚ク荒キ處ニ於テ海氣中ノ食鹽ヲ檢センカ爲メ
 千倍ノ硝酸銀溶液ヲ以テ其三分一ヲ充タセル水呑「コップ」
 ナ取り居室ノ海ニ向ヘル一牕ヲ開キテ之ヲ置キ三日乃
 至五日ヲ經過スルコト數回ナレハ曾テ其溶液中ニ混濁
 又ハ沈澱ヲ生セシコトナシ又一「リイテル」ヲ容ルヘキ硝子
 瓶ヲ取り之ニ百立方仙迷ノ硝酸銀溶液ヲ入レ海岸ニ於
 テ取りタル海氣ヲ之ト共ニ振盪セシニ又更ニ格魯兒銀
 ナ生シテ混濁ヲ來スコアラサリシ故ニ海氣中食鹽并ニ
 「グローム」沃度ヲ含ムト云フ說ノ誤レルヲ信スルナリ蓋

シ激浪岸ヲ打ツノ時水烟トナリ海水ノ風ニ混シ岸頭ニ
 立ツノ人ナシテ風ノ鹹ナルヲ覺エシムルコアルハ爭フ
 ヘカラサル事實ニシテ最モ説明シ易キ所ナリ然レハ未
 タ之ヲ以テ海氣ノ含鹽ト稱スルヲ得ス却テ海水ノ蒸發
 シテ大氣中ニ移行スル水蒸氣ハ每時必ス無鹽ナリ是レ
 海水ヲ蒸餾シテ得ル蒸餾水モ亦更ニ食鹽ヲ含マサルヲ
 以テ證スヘシ
 酸素、窒素、炭酸、阿巽及ヒ水蒸氣ハ一定ノ割合ヲ以テ混合
 シ海氣純粹ナレハ敢テ其他ノ瓦斯分ヲ含マズ然レハ村
 落及都府ニ於ケル空氣ハ此主要ナル成分ノ外尙人家職

工所製造所并ニ生活動植物ヨリ蒸散スル瓦斯類及ヒ酸
 酵産物腐敗産物ヲ含ムカ故ニ曾テ海上空氣ノ如ク清潔
 ナル能ハス故ニ海上空氣真正ナルモノハ實ニ化學的純
 粹ノ空氣ト稱スルモ敢テ過言ニ非サルナリ
 海上空氣ノ陸地空氣ニ比シテ勝ルコト如斯ナルニ更ニ
 尙一層其性質ヲ善美ナラシムルモノアリ即チ海上空氣
 ニ塵埃ナク微菌ナキ是ナリ
 海岸ノ浴舎ニ於テ終日牕ヲ開放スルモ室内ニ一點ノ塵
 埃ヲ認メズ隨テ衣刷毛及帽刷毛ヲ要セサルヲ常トス是
 レ番ニ塵埃ノ空氣中ヨリ來ラサルノミナラス又海岸ノ

砂石ハ清淨ニシテ小粒狀ヲナシ乾クモ塵粉ヲ生セス濡
 ル、モ污垢セサレハナリ海岸ニ在テ大陽光線ノ間隙ヨ
 リ暗室ニ入ル(浴室ニ於ケルカ如シ)ヲ見ルニ常住地ノ居
 室ニ於ケルカ如ク光明ニシテ無數ノ細粉閃々トシテ飛
 搖シ殆ソト不透明ナルカ如ナラス其光明淺藍色ニシテ
 透明ナルヲ認ム是レ海氣中塵埃ノ少ナキヲ證スルニ足
 ル
 近頃又獨乙海軍大軍醫「ドクトルフィッシュユル」氏カ西印度ニ
 旅行セル途海上空氣ノ微菌ヲ試定セシヨリ益々海氣
 ノ清潔ナルヲ知レリ氏カ旅行ハ千八百八十五年ノ冬ヨ

海

氣

浴

リ翌年ノ春ニ亘ル半年間ニシテ「モルトケ」號ノ船舷ニ
 立チ「ユル、コッフ」氏及「ヘツセ」氏ノ嚴密ナル學問的方法ニ
 ヨリテ試験ヲ行ヘリ而シテ「ヘツセ」氏ハ海氣ノ微菌量ハ大陸ヲ距
 ルノ里數ヲ以テ漸次減少シ一定ノ遠サニ達スレハ全ク
 消失スルヲ發見セリ今氏カ言フ所ニ據ルニ二十二乃至
 二十四海里(五半乃至六獨乙里)「フリー」スホルランドノ海
 岸(又英國海岸ヨリ同里)ヲ距リ「ウイルヘルム」港ヨリ「プライ
 マウス」ニ向フノ線路中ニ之ヲ測ルニ(此時風ハ海上ヨリ
 陸地ニ向フ)二十リ「テ」ルノ北海空氣中唯一介ノ微菌(「バ
 ナルス」)ヲ見シノミ然ルニ英ノ「カナル」ニ至レハ殆シト六

浴

氣

海

倍ノ微菌即四十リ「テ」ルノ空氣中ニ十一ノ微菌(「シン」メ
 ル「ピ」ルツ)「七」ハ「ナ」ルス「二」ミ「ク」ロ「コ」ツ「ス」
 「一」ヘ「ト」フ「エ」ニ「二」ヲ發見
 セリ而シテ「プライ」マウスノ港内ニ於テハ四十リ「テ」ル中
 九個ノ微菌(只皆「シン」メル「ピ」ルツ)ヲ得「ウイルヘルム」港ノ「レ
 ー」デニ於テハ陸地風ニ際シ三十二リ「テ」ル中ニ微菌十
 三ヲ得タル大陸ヲ距ル三十海里(七半獨乙里)ナレハ平均
 四十二リ「テ」ルニシテ一微菌ヲ見ル百二十海里三十獨
 乙里ナレハ千五百二十二リ「テ」ルニシテ初メテ一微菌
 ニ逢ヒ之ヨリ距ルコト遠ケレハ常ニ微菌ヲ見サリシト
 云フ

「ライオンシュエ」氏ハ面積少キ島嶼ニ在リテハ之ヲ距ルコト
 幾モナクシテ既ニ微菌皆無トナルヲ見タリ例ハ「バルバ
 ドス」ハ大西洋中ニ在リテ七八平方里ノ面積ニ十六万二
 千ノ住民ヲ有スルモノナリ而シテ其之ヲ距ル二十六海里
 (四半獨乙里)ノ海上ニ於テ九十六「リ」テ「ル」ノ空氣中一個
 ノ微菌ヲモ見ス又面積ノ大ナル所ニ於テモ風ノ海上ヨ
 リ陸地ニ向ツテ吹クハ海岸ヲ距ルコト比較的少キモ海
 氣中微菌ノ存在ヲ見サルナリ「ベルギー」東「フリ」ス及
 「ユットランド」ノ海岸ノ如シ故ニ海氣ノ微菌量ハ唯單ニ陸
 地ヲ距ルノ遠近ニ因ラスシテ寧ロ風位ニ存スル陸地ノ

遠近ニ基クナリ「ライオンシュエ」氏ノ説ニ據レハ下等植物ノ
 萌芽ハ空氣中ニ浮ンテ陸地ヲ距ル、ノ概ネ七十乃至百
 二十海里(十七半乃至三十獨乙里)ニ過キヌシテ他ノ塵埃
 ト均シク重力ノ規則ニ從ヒ風ノ強弱ニ應ジテ早晚下降
 スルモノナリ殊ニ空氣中ヨリ雨露ノ下降スルキハ大ニ
 此萌芽ノ下降ヲ助ケ因テ空氣ノ微菌量ヲ減殺ス而シテ海
 上空氣中ニ存スル微菌ノ種類ニ至テハ「シンメルベルツ」
 ナク最多トシ「ヘーフェ」及分裂微菌「バクテリア」ハ遙ニ少シ之
 レヲ試驗ニ徵スルニ微菌ノ數六十八個ニシテ「シンメル
 ルベルツ」ヲ見ルコト五十一ヲ下ラサリシト云フ

前章説ク所ノ緊要ナル試験ニヨリテ海上空氣ノ微菌數ハ主トシテ風ノ方位ト強度ニ關スルモノナルコトヲ知レリ
抑眞正海氣ノ化學的及ヒ微菌學的ニ精査シタル清潔ナル海氣ハ人身ニ何等ノ効ヲ及ホスヤ今之ヲ左ニ陳述ス
人若シ此清潔無菌ノ海氣中ニ在ルニ週日セラハ其市街及房室ノ空氣ヨリシテ呼吸器消化器皮膚及ヒ衣服ニ附着シ來リテ健康ヲ害スル所ノ萌芽漸次減少シ遂ニ全ク消失シテ其無菌ナルヲ恰モ初生兒ノ如キニ至ルニシ

清潔ナル海氣ノ直接ニ作用シテ其効アルモノハ下等ノ寄生植物ニ因リテ起ルカ若クハ之ニ因スル分解作用ニヨリテ荏苒治セサル所ノ呼吸器及消化器ノ疾患ナリ就中予カ之ニ記サントスルモノハ鼻粘膜ノ變質慢性鼻加答兒ニシテ惡臭(オツエナ)アルモノ慢性咽頭加答兒慢性口内炎慢性喉頭及氣管支加答兒殊ニ氣管支擴張ノ爲ニ來ル腐敗性氣管支加答兒並ニ有菌ノ唾液及口内粘液ノ嚥下ニ起因シテ荏苒治セサル胃腸ノ醱酵及腐敗作用殊ニ胃腸ノ疾患ニ伴フモノ等之ナリ此等ノ疾病ニ海氣ノ効アルハ經驗上疑ナキ所ニシテ阿巽モ亦幾分カ茲ニ與リ

テカアルモノナルヘシ
 純良清潔ニシテ微菌ヲ含マサル海氣中ニ於ケル氣浴ハ
 又大ニ小兒ノ百日咳(疫咳)ニ効アルヘシ抑モ該病ハ屢幼
 者ノ身體ヲ害スルコト甚シキモノナルニ未タ海氣浴ヲ試
 ミタルモノアルヲ聞カスト雖モ疫咳療法トシテ大ニ奏
 効ノ望アリ且ツ全身營養ヲ鼓舞催進スルコト能ク海氣
 浴ニ勝ルモノアルヲ見サルナリ
 海氣浴ノ適應症中ニ肺結核ヲ算入ス患者茲ニ清潔無菌
 ノ海氣ヲ呼吸スルコト月余ナレハ呼吸器ノ限局セル結核
 性疾患治癒ノ傾向ヲ催促ス可シ但シ固ヨリ疾患ノ初期

ニメ局所ニ止マリ且未タ全身營養ノ状態能ク持續シテ
 動搖セル海氣中ニ堪ユル時ニ限ルモノトス聞ク所ニ據
 レハ輓近患者ヲシテ冬日ヲ獨乙北海ノ島中ニ消息セシ
 メ常ニ良効ヲ得タリト云フ其効果シテ彼カ言ノ如クナ
 ラサルモ尙且冬日北海ノ島中ニ光陰ヲ送ルハ市街ニ住
 居スルニ勝ルコト遠シ(患者ヲ此ニ送ラハ爲ニ其地ノ人民
 又ハ他ノ浴客ニ病菌ヲ傳播スルノ恐アルカ故ニ現今其
 効ノ確證アル消毒豫防ノ方ヲ以テ此不幸ヲ豫防セシコ
 ト怠ルヘカラス

第三章

海氣ノ動搖

海風ノ人身ニ及ホス作用三アリ第一身體及被服ヲ換氣
 スル作用第二奪温作用第三皮膚ノ瓦斯交換ヲ催進スル
 作用(皮膚呼吸)是ナリ
 第一換氣作用ハ恰好ナル浴場ノ屋外ニ在リ平均一秒時
 ニ七乃至九メートルノ速力ヲ有シ所謂通常人ノ清涼風
 ト名クル風ニ衝タルヲ良トス即チ之ニ際シテハ衣服中
 ニ含メル塵埃萌芽ヲ拂ヒ去リ皮膚ノ蒸發氣ヲ以テ充タ
 セル空氣ヲ驅除シ即チ化學的清潔ノ空氣ヲ以テ之ニ代
 ユル者ナリ

第二海風ノ皮膚ヨリ温ヲ奪フノ作用ハ航行中若クハ島
 嶼ニ到着スルノ時寒冷若クハ惡寒ヲ感スルヲ以テ既ニ
 明知スルニ足ル故ニ初頭ハ夜具ヲ被リ又ハ外套ヲ着ク
 ルヲ例トス然レモ海氣ノ動搖ハ平等ニシテ且比較的温
 和ナルカ故既ニ二三日ニシテ皮膚能ク之ニ慣レ殆ント
 其不快ヲ感セサルニ至レリ
 動搖セル空氣ノ作用ヲ試験センカ爲メ獨醫「ヒルレル」氏
 ハ一四三リリ「テル」ヲ容量ニシテ八〇八平方仙迷ノ表面ヲ
 有セル硝子瓶ヲ採リ之ニ攝氏四十五度ノ温湯ヲ充テ驗
 温器ヲ貫穿セル護膜栓ニテ其口ヲ塞キ之ヲ室内ノ中央

海 氣 浴 (76)

ニ懸垂シテ其冷却スルヲ五分時毎ニ點檢シタリ而シテ硝子瓶ノ前ニ長サ四十二巾二十五仙迷ノ齒板八個ヲ有スル手風車ヲ裝置シ手ヲ以テ之ヲ廻轉シ隨意ニ適宜ノ速力ヲ作出シ以テ動搖セル空氣ヲ硝子瓶ニ當ラシメテ其速力ヲ變セシムルカ如ク數回反復シテ行ヒタル試驗ノ奪温結果ハ左ノ如シ

硝子瓶ノ湯水攝氏四十四度ヨリ三十度ニ至ルマテ下降セシメシカ爲メニ費ス所ノ時間ハ左表ノ如シ

風ノ速力	空氣溫度	時間(分時ヲ以テ之ヲ示ス)
無風	攝氏 一七度	一一六、〇分時

海 氣 浴 (77)

一	迷	一九	七二、〇
二	迷	一三	四四、〇
三	迷	一七	三七、〇
四	迷	一七	二九、五

此ニ依リテ之ヲ見レハ奪温ノ度ハ風ノ速力ニ伴ヒメ一テル毎ニ増進スルコト甚タ著明ナルヲ知ルナリ但シ此試驗ハ硝子瓶ノ裸出セルモノヲ用ヒテ行ヘリ更ニ被覆シタル硝子瓶ヲ以テ試験ヲ反復セシニ四十四度ヨリ三十度ニ至ルマテ下降セシメシカ爲メニ要スル所ノ時間ハ左ノ如シ

海 氣 浴 (78)

襦 袷	襦 袷			出 裸			空 氣 ノ 温 度 (攝 氏)	風 ノ 速 力 (メ ー テ ル)	時 間 (分 時)
	覆	テ 被	ナ 以	襦 袷	出	裸			
一七、五	二 三			二 〇	一 七	一 七	一 七	一 〇	五 七、〇
〇	四			〇	四	三	二	一	三 六、〇
一 三 四	四 一			八 五	一 五、〇	一 八、四	二 二、〇	〇	〇

海 氣 浴 (79)

被 覆	以 紗	厚 羅	及 七
一 五、〇	一 五、〇	一 五、〇	一 四、〇
四	三	二	一
七 五	七 六	七 七	一 六 九

右ノ表ニ據ルニ身體皮膚ノ衣被セサル部分(顔面、頸ノ上部、手)ハ只四迷、速力ノ風ニテモ且ツ衣被セル部ニ比スレハ温ヲ失フノ多キヲ殆ント五倍ナルヲ知ル然レモ衣被セル部分ニ於テモ亦風ノ速力六乃至八迷、ナンハ無風ノ時ヨリ温ヲ失フヲ多ク殆ント之ニ倍セルヲ見ルナリ然レモ各人毎時必ス如斯基モノニ非スシテ身體ノ奪温ニ

(80)

海

氣

浴

ハ種々ノ状態ニヨリテ大ニ異變アル者ナリ其之ニ關スルモノハ氣温ノ變動失温ニ對スル被服ノ適否皮膚血管ノ收縮浴客ノ生活状態(亞爾個保兒飲用)及ヒ屋外ニ在ル時間ノ長短等之ナリ概シテ之ヲ言フ時ハ海氣中ニ於ケル體温放散ノ度ハ其滞在スル四週乃至六週ノ間平均毎日六時間宛之ニ浴スルカ故ニ短時ノ海水冷浴ニ比スレハ頗ル著シキモノナリ故ニ氣浴ヲナスモノ其意暑ヲ避ケ涼ヲ納レ神身ヲ爽快ナラシムルニ在ラスシテ眞ニ療病ノ目的ナラハ須ク嚴ニ醫ノ導ク所ニ遵ヒ規律ヲ立テ以テ以上所陳ノ事項(被服、生活状態、家外ニ在リ海氣ニ浴

海

氣

浴

(81)

スルノ時及ヒ時間ニ注意セサルベカラス海氣中ニ於ケル奪温増進ノ作用ハ多々ニシテ且偉大ナリ第一之ニ因ル皮膚ノ寒冷刺戟ニシテ其作用ハ既ニ海水浴ノ章下ニ詳悉セリ抑海氣ノ寒冷刺戟ハ甚穩和ナレ且其吾人皮膚ニ當ルコト長時ナルカ故其作用ニ至テハ海水冷浴ニ一步タモ讓ラサルノミナラス却テ海氣浴ハ其性穩和ナルノ故ヲ以テ海水冷浴ニ堪ヘザル者モ亦能ク之ニ浴スルヲ得テ其効ヲ收ムルノ利アリ海氣浴ノ此効ハ其基ク所一ハ悉ク皮膚ノ知覺神經ヲ輕ク興奮シ神心ノ倦惰ヲ破リ之ヲシテ活發ヲラシメ以テ清涼ノ感ヲ

惹起シ一ハ緩慢ナル皮膚平滑筋纖維ノ機能ヲ練習鼓舞
 シ以テ寒冷ノ之ニ當ルアレハ忽チ收縮シテ皮膚ノ貧血
 ナ來シ因テ急劇ノ失温(寒胃)ヲ防キ一ハ知覺神經ヲシテ
 如斯寒冷刺戟ニ慣レシムル(練習法)ニアルナリ
 第三皮膚ニ於ケルト同一ニ又呼吸器ノ粘膜モ海氣浴
 ニヨリテ其練固スルヲ得殊ニ鼻腔咽喉頭及氣管ノ
 粘膜ヲ然リトス此際ニモ亦強ク動搖セル寒冷空氣ノ吸
 入ニ當リ先ツ粘膜ヲ刺戟シテ粘液分泌ノ催進ヲ營爲ス
 是レ通常慢性加答兒ノ粘膜弛緩セルモノニ於テ却テ望
 ム可キ事ナリ其他海氣ノ寒冷ハ粘膜ノ分布セル有筋血

管ヲ收縮シ日々ノ復習ニヨリテ其機能ヲ強クシ急劇ノ
 寒冷刺戟アレハ能ク之ニ應シテ收縮シ以テ寒胃ヲ防禦
 スルヲ得セシム又粘膜ノ寒冷刺戟ニ應スル知覺之ニヨ
 リテ鈍麻ス實驗ニ據ルニ海氣呼吸ニヨリテ管ニ呼吸器
 ノ慢性頑痼ナル加答兒ノ二三週間ニシテ治癒ス而已ナ
 ラス又能ク粘膜練固シテ秋冬ノ候ニ於ケル寒胃刺戟ニ
 衝タルノ抵抗力ヲ得ルナリ蓋シ海氣浴ノ此緊要ナル用
 ナ知ラントセハ其加答兒患者タルヲ以テ海風ニ遇フノ
 初頭ハ苛烈ニシテ不快ヲ來スモ之ヲ恐レズ推シテ家外
 ニ出テ其身ヲ化學的清潔ニシテ阿巽ニ富ミ濕氣ヲ含ム

コト多ク且ツ全ク塵埃萌芽ヲ含有セサル海氣ニ住ス可
 シ但シ治療ノ法則ヲ守リ無妄ニ浴スルコト勿レ
 第三奪温ノ増減ハ又以テ體中製温ノ旺盛ヲ喚起ス是レ
 冷浴ノ後作用ニシテ熱性患者ハ勿論健體ニ於テモ且ツ
 十分之ヲ證スルコトヲ得ルナリ通常浴客其浴ヲ初ムル
 ノ數日間ハ食機甚ダ進ミ食物攝取ノ多キヲ致スヲ見ル
 ハ之レカ爲ナリ滯在中ハ攝取セル食物ノ體中ニ於テ製
 温ニ消費サル、コト浴前ヨリ多キカ故攝取スル食物ノ
 量著シク増加スルモ之カ爲別ニ滯在中體量ノ増加ヲ見
 ス是レ實際見ル所ノ事實ナリ二十歳乃至三十四歳ノ六

人ニ就キ浴ヲ畢リタル後其體量ヲ秤リタル某醫ノ實驗
 ニ據レハ内四人ハ浴ヲ初ムルノ時ト同重ニシテ而モ他
 ノ二人ハ却テ體重ヲ減シ一人ハ六十二「キログラム」ノ體
 重減シテ五十八「キログラム」トナリ他ハ五十九ヨリ五十
 七「キログラム」ニ減シタルヲ見タリト然レモ浴ヲ畢リタ
 ル次週若クハ次月ニ至レハ三乃至五基瓦ノ體重増加ヲ
 來スヲ常トス又「ベネーケ」氏ハ尿中ニ尿素、硫酸及ヒ格魯
 兒化物增量シ尿酸及磷酸鹽類ノ量ハ減スルヲ見タリト
 云フ此緊要ナル海氣作用ヲ十分ニ説明センカ爲メ化學
 家ノ熟手ヲ以テ詳細ニ其物質交換ヲ試定センコト余輩

海

氣

浴

ノ切ニ希望スル所ナリ
 製温旺盛ニ伴フテ其勢ノ増進スル體內物質交換及酸化
 作用ハ營養障害及代謝機ノ疾患ニ効アリ是レ經驗ニ徵
 シテ明ナル所ナリ此障害ハ未タ其何者タルヲ詳ニセサ
 ルモノ多ケレトモ一般ニ其徵候トスル所ハ全身營養血
 液製造及發育ノ退歩并ニ身體各部例令ハ骨筋神經ノ營
 養不良等ナリ主トシテ茲ニ屬スルハ小兒ノ佝僂病及瘰
 癧并ニ營養及發育不全萎縮貧血症及萎黃病經久食機缺
 損及所謂神經性胃弱一般神經衰弱症ノイラステニ一身體
 體各所ニ於ケル神經疾患ノ徐々ニ治スヘキモノ(神經痛

海

氣

浴

坐骨神經痛顔面痛知覺及運動ノ微弱及不全麻痺諸種ノ
 「ヒステリー」症及「ヒポコンデリー」症皮膚及骨ノ治癒シ難
 キ創痍及潰瘍頑固ノ皮疹陳舊性ノ梅毒症其他痛風及慢
 性關節僂麻質斯等ナリトス經驗ニ據ルニ此等ノ疾患ニ
 長時持續シテ海氣浴ヲ用ユレハ其奏効偉大驚ク可キコ
 ト尠カラズ而ノ往々海水温浴又ハ海水冷浴ヲ兼用シテ
 大ニ其効ヲ助クルコトアリ抑モ物質交換諸病及各器官
 ノ疾病ニシテ醫療更ニ効ヲ奏セサルモノモ克ク此海浴
 ニヨリテ治スルコトアルハ人ノ已ニ久シク知ル所トス
 第三皮膚及ヒ呼吸器ニ海風ノ効用アルハ身體表面并ニ

衣服中ニ存スル瓦斯狀排泄物(炭酸水蒸氣安母尼亞)ノ之ニ因リテ速ニ驅除セラレ酸素及阿巽ニ富ムノ空氣之ニ代ルニアルナリ此作用ニヨリ皮膚ノ炭酸排泄増進セラレ而シテ又恐クハ酸素ノ皮膚血管ヨリ血中ニ吸取セラレルモノモ其量ヲ増シ一ハ以テ大ニ肺呼吸ノ負擔ヲ輕減シ一ハ以テ増進セル温體製出ニ其所要ノ酸素ヲ給シ燃燒作用ヲ旺盛ス皮膚ニ漆ヲ塗ルカ如キ事ニヨリテ皮膚呼吸ヲ妨遏スル時ハ體温下降シ(ヘルナルド)氏其妨遏十分ナレハ之ニ用ヰタルノ動物瞬時ニシテ死シ不十分ナルモ尙ホ酸素不給ノ症候(呼吸困難皮膚蒼白)來スハ人

ノ知ル所ニシテ以テ皮膚ノ大ニ呼吸ニ關シ酸素ノ血中ニ入ルヲ助クルヲ證スルナリ
皮膚呼吸ト肺呼吸ノ關係ヲ承認ス可キ經驗ヲナセルハ「ヘルレル」氏ニノ千八百八十七年八月獨乙北海ノ浴場「ウー」及「シルト」ニ浴セル時及殊ニ其廿四、廿五ノ兩日「シルト」ヨリ「ヘルゴランド」ニ到リ而シテ復歸リ來レル航行中ニアリトス今其成績ニ據ルニ久シク海岸若クハ船舷ニ立ツノ時海風中等強ニシテ清涼ヲ感スルニ止マレハ予カ呼吸ノ數ハ常ニ毎分時七半乃至十一次ニ降下セリ茲ニ其經驗ヲ附記シテ讀者ニ示ス

(90)

海

氣

浴

八月二十六日「ウイグ」天晴レ風ハ南一

午前九時 朝餐(カ)後海 呼吸數十七半

全 九時半全 呼吸數十四乃至十五

全 十時 海岸ニ坐シテ 呼吸數八半

全 十時半 脚ニ伸シテ砂 呼吸數七半

數回深呼吸ヲナシタル後三分時ニシテ之ヲ數ヘシニ呼

吸數只四半乃至五次ニ減シタルニ尙ホ呼吸困難カシ五

分時ノ後ニ至テモ尙六次ニ過キス

午後四時 晝餐後半時ニシ 呼吸數十一

全 四時半 取リ半身捻回シテ位置ヲ 呼吸數十二

全 五時 自由ニ脚シテ 呼吸數十

八月二十四日「ヨリ」ヘルゴランドニ航ス

海

氣

浴

(91)

天氣晴朗ニシテ風ハ西南一乃至二

午前九時 舷ニ坐シ 呼吸數九半

全 九時半全 呼吸數八

全 十一時全 但シ少許ノ食 呼吸數九

午後一時 全 但シ肉又ナシ 呼吸數九半

八月二十五日「ヘルゴランド」ヨリ「ウイグ」ヘ反航

天晴風南〇乃至一

午前十時 甲板上ニ坐シ 呼吸數八半

全 十一時全
 午後一時全
 全 一時半全 但シ麥酒ヲ飲
食了少許
 全 八
 全 七半
 食物攝取ノ殊ニ亞爾個保兒性飲料(葡萄酒麥酒)ト共ニセ
 ルモノヨク呼吸ノ數ヲ増シテ毎分時十五乃至十八次稀
 ニハ其以上ニ至ラシム速歩ヲ以テセル散歩ノ如キ筋ノ
 勞動モ亦然リトス就中奇異ノ感ヲナセルモノハ海岸ニ
 臥シテ自由ニ手足ヲ伸ヘ故意ニ吸息ヲ深クシ之ニヨリ
 テ呼吸數ノ一分時ニ四半次ニ減シタレト更ニ些少ノ呼
 吸困難ヲモ覺エサリシヲ等之ナリ

此經驗ニ據レハ島上ノ海氣浴ハ喘息ニ効アルヘシトノ
 想像ヲ固カラシムルニ足ル而ノ其原因ノ肺擴張(肺氣腫)
 ニアルト心臟辨膜缺損ニ於ケル肺循環ノ障礙ニアルト
 ナ問ハス又神經性ニシテ發作スル氣管技喘息タルヲ論
 セス均シク効驗アルヲ信スルナリ固ヨリ海氣療法ニ依
 リテ毎時能ク平治スルト云フニ非レトモ其久シク滞在
 シテ浴ヲ取ルヤ若楚多キ疾患ス大ニ輕快シ發作ノ勢及
 度數ノ減スルヲ見ル又長時化學的清潔ナル海氣ニ浴ス
 レハ神經性喘息ノ能ク全治スルハ疑フヘカラサル所ナ
 リ

第四章

海氣浴ノ時間

海水浴ニ比シテ海氣浴ハ其作用甚ク緩和ナレトモ常住ニシテ長時ナルカ故其効ニ至テハ却テ多シト大數週適當ナル浴場ニ滞在スル者ハ其室ニ在ルトキモ其眠レル間モ尙且ツ斷ヘス清潔ニシテ濕氣多ク塵埃萌芽ヲ含有セサル海氣ノ中ニ呼吸スルノ利ヲ受クルナリ動搖セル海氣中ニ浴スルノ長短ハ家外海岸ニアルト室内ニ蟄居スルトニ由リテ異ルナリ即チ一般ニ浴客ハ只夜間ノミ室内ニ住ミ晝間ハ晨ヨリ暮ニ至ル迄食事ヲ除クノ外悉

ク家外(天幕ノ下涼樹ノ中或ハ海氣館ニ於ケルカ如シ)ニアリテ一日ノ内醫ノ指揮ニヨリテ其浴時其時間及其度數ヲ定メテ海岸ニ出テ風ノ全力ニ衝タルヲ良トス然レモ尙此點ニ於テ飲ソル所頗ル多シ是レ予カ自ラ目撃スル所ニシテ惜ム可キ事タリ殊ニ貴女令嬢ニ於テ其然ルヲ知ル乃チ浴場ニ在リテモ尙平生ノ習慣ヲ改メテ家外ニ出テ海岸ニ立チ以テ海風ニ浴スルコトヲサス徒ニ室内ニアリテ粉黛裝飾ヲ事トシ書簡ヲ認メ禪史ヲ讀ムカ如ク可惜晴日ノ大半ヲ費スカ如キ之レナリ
海氣ニ浴スル者ハ須ク雨天ト雖モ室内ニノミ住セスシ

テ傘ヲ借リ家外ニ出ツルヲ良トス空氣ハ雨天ノ際ハ最モ清濕ニシテ阿巽ニ富ムモノナレハナリ海浴場ニハ又斯ノ如キ天氣ニ際シ浴客ニ便スルガ爲メ共同ノ館ヲ設ケ雨ヲ避ケ海氣ニ浴スルヲ得セシムルヲ要ス浴者ハ夜間モ亦風ノ方向強弱及氣温ノ程度并ニ患者ノ狀態之ヲ許サハ須ク臆ヲ開放シテ寢ニ就クヘシ

海氣療法ニ要スル滞在日數ハ全ク疾患ノ種類ニ從テ一様ナラス百日咳氣道ノ加答兒全身ノ虛弱貧血神經衰弱輕度ノ神經疾患顔面痛坐骨神經痛及他ノ神經痛(精神ノ衰弱)憊勞輕度ノ癱瘓質斯并ニ皮膚粘膜ノ練固ニハ通常

四乃至六週ヲ滞在ヲ以テ足ルト雖モ高度ノ營養障害並ニ陳久ノ各器官ノ痼疾例ハハ佝僂病癩瘰結核萎黃病梅毒痛風頑固ノ關節癱瘓質斯重症歇私的里重症神經疾患(舞蹈病及他)ノ可治的癱瘓症身體各部ノ麻痺及鈍麻骨及腺ノ慢性疾患氣管枝喘息等ニアリテハ大抵數月ノ滞在ヲ要シ或ハ年ヲ越ユルニ非レハ以テ久シク再發ヲ防クニ足ラス況ンヤ全癒ニ於テオヤ此事成人ニアリスハ何レノ島嶼ニアルモ可ナリト雖モ小兒ニハ便ナラス適當ノ浴場ニハ醫師ヲ備ヘ用意周到ナル小兒療養院ノ大ナルモノヲ設クルヲ要ス

海氣浴の編下ニ附章ナシテ尙説ヲ要スルモノハ日光作用ナリ此作用ハ海陸ニ在リテ大陸ニ於テハ更ニ強シ是ハ太陽ヨリ直ニ吾人ノ身體ニ來ル光線ヲ他尙陸海水鏡面并陸海岸空自砂等ヨリ反射シテ入ルカ故ナリ海陸ニ於テ光線ノ作用樹木繁茂シ草野多シ大陸ヨリ比シテ甚シキ甚シキ際ニ見ル人々往々海岸ニテテ蓋明ニ堪ルニ藍色又白灰色ニ眼鏡ヲ用ルカ然ラズ得ルニ言ハルニ蓋ニ之ヲ爲シテ抑テ光線ヲ減シ身體ニ何等ニ影響ナク及ルニテ今則テ得ルニ説テ得ルニ寫眞植物界ニ經驗及理化學ニ於テテ試驗ニヨリテ予輩ニ日光ニ化學的

作用ヲ營爲シテ化合物ヲ分解シ又ニ新體ヲ組成スルニ必要ナルヲ知レリ又日光ノ下ニ生存スル動植物ト陰影若シテ所ニ消息スルニテ此較シテ前者ハ其生活状態富饒ニ發育肥大花實美シク其數多ク色澤形狀及種類非常ニ饒殖スルニ後者ハ發育惡シク萎縮シテ色鮮ナク且ニ其形小ナリ然レテ人身體ニ就テハ只日光ニテ精神爽快ナク敢爲ニ氣ヲ喚起スルニ顔面及手ノ強ク褐色ナク知ルニテ

備考
實ニ海上ニ眺望森林ノ風景壯美ニ目ヲ喜ハシク心

海

氣

浴

神ヲ慰ムルノ海岸浴場ハ陸地ノ避暑地ニ勝ルヲ數等ナ
 リト雖モ陸地氣候ト海上氣候ト混交セル所謂海濱氣候
 ナルモノニ島嶼ニ於ケル如ク純粹ノ海氣即チ化學的
 清潔ニシテ多量ノ阿巽ヲ含ミ塵埃及萌芽ヲ混セサル所ニ
 比スレハ療病ノ効甚シ故ニ單ニ暑ヲ避ケ神身ヲ慰セン
 ト要セハ風光美ニシテ眺望ニ富メル海岸ヲ撰ム可ク一定
 ノ疾病殊ニ營養障害、血液製造ノ疾患、神經疾患、骨及皮膚、
 粘膜、肺臟等ノ疾患ニ海氣浴ノ効驗ヲ望ムハ須ク海上島
 嶼ニ於テスヘシ
 都府漸ク其大ヲ増シ住民益々増殖シ職業繁多ヲ極メ勞

海

氣

浴

動亦從テ劇ナ加ヘ之ニ伴フニ宴會夜會ニ於ケル過飲飽
 食及他ノ快樂ヲ以テシ有識有資ノ社會ヲシテ益其腦力
 ナク憊勞セシメ所謂神經衰弱症當時既ニ風習病トナレリ
 夫起シ人家稠密トナレハ從テ各人各個ニ於ケル日光空
 氣及地面ノ供給不足ヲ生シ食物ノ不給之ニ加ハリ以テ
 大ニ健康ヲ害スルヲ知リ人民一般ニ時々充分清潔ニシ
 テ萌芽ヲ舍マサル空氣ヲ呼吸スルノ必要ヲ感スルニ至
 テハ海水浴場ハ正ニ一年一年ヨリ隆盛ヲ極ムルニ至ルベ
 シ
 市人若シ一年ノ内十一月間絶ヘス作業場、病院、學校、集

會所等ニ在リテ塵埃萌芽ニ富ミ殆ント全ク動搖セサル
 空氣ヲ呼吸シ之ニ加フルニ神身ヲ勞シ又ハ感情ヲ激シ
 タルモノ其第十二ヶ月ニ至リ島嶼若クハ海濱ニ行キ身
 ナ勞セス神ヲ煩ハサズ日々夜々只化學的清潔ニシテ十
 全無菌ノ空氣ヲ呼吸シ絶ヘズ活發ニ動搖セル空氣中ニ
 歩行スルノ狀ヲシテ他物ヲ以テ之ヲ例セハ狭少ナル塘
 池ノ混濁セル靜水ヲ出テ潺湲玲瓏タル溪水ノ中ニ游ク
 魚族ノ如ク又壯牛ノ冬日暗淡タル厩屋中ニ在シモノ夏
 日之ヲ出テ高クシテ廣濶ナル牧場ニ入ルカ如ク神身忽
 ナ爽快ヲ覺ヘ生活顯象悉ク活發トナリ食機進ミ物質交

換作用旺盛シ血液増加シ身體強健トナルコト論ヲ俟タ
 サルナリ

海浴示導完結

廣 告 (I)

醫學士 筒井八百珠先生纂著

改正 臨 牀 醫 典

第四版 全一冊 正價 金壹圓 郵稅 金六錢

獨逸ライプツヒ大學外科教授チルマンズ氏原著 日本醫學士 伊勢錠五郎先生譯述

智兒曼斯氏外科各論

全七冊 各冊 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢

獨逸ドクトル、ユリウス、シユワルベ氏原著 日本醫學士 伊勢錠五郎先生譯述

洙氏內科完璧

全五冊 正價 金參圓 (各冊金六拾錢) 郵稅 金貳拾四錢 (各冊金六錢)

醫學士 伊勢錠五郎先生編纂

集 成 藥 物 學

全五冊 各冊 正價 金六拾錢 各冊 郵稅 金六錢

プロフェッショナルヘルマレンハルツ氏原著
小島浦三郎先生共譯
江錠太郎先生共譯

顯微鏡的臨牀診斷學
及化學的臨牀診斷學

合本 全一冊
分本 全二冊
正價 金壹圓八拾錢
郵稅 金壹圓七拾錢

醫學士 佐藤 勇 佐先生校閱
寺尾 勇 平先生纂著

改正內科類症鑑別
增補

第四版 全一冊
正價 金壹圓三拾錢
郵稅 金拾錢

寺尾 國 平譯述

袖珍治療寶函

全五冊
正價 金壹圓五拾錢
郵稅 金拾錢
各冊正價 金四拾錢
郵稅 金四錢

ドクトル醫學士柴田耕一先生共譯
平出謙吉先生

充爾 婦人科準繩
僊氏

全一冊
正價 金九拾錢
郵稅 金八錢

醫學博士 佐々木政吉先生 校閱
醫學博士 柳 叔先生 醫學士 丹岡英之助先生纂著

新撰電氣療法

全一冊
正價 金壹圓貳拾錢
郵稅 金八錢

醫學博士 緒方正規先生校閱
海軍大藥劑官 藥學士 小山 哉先生譯補
醫學士 柴田長道先生

衛生學講本

全二冊
上卷 金九拾五錢 郵稅八錢
下卷 金九拾五錢 郵稅八錢

醫學士 川村正治先生纂譯
宮地良治先生

羅獨 醫學辭典
和譯

第二版 全一冊
正價 金貳圓五拾錢
郵稅 金拾錢

醫學士 高安右人先生著述

最新眼科全書

全三冊
上卷 金九拾錢 郵稅六錢
正價 金九拾錢 郵稅六錢
次卷 金九拾錢 郵稅六錢

醫學士 高橋金一郎先生譯

ナールムゼン醫則

冊一全 正價 金三拾錢
郵稅 金貳錢

醫學士 岡田和一郎先生譯補

外科手術關鍵

冊二全 上卷 正價 金壹圓五拾錢
下卷 正價 金八拾錢
郵稅 金壹圓四拾錢

醫學士 田代義德先生著

外科手術篇

版二第 冊一全 正價 金九拾錢
郵稅 金八拾錢

川上政八先生纂著

通俗看病學

冊一全 定價 金貳拾五錢
郵稅 金貳錢

小貫邦義先生編

改醫術開業試驗問題答案集

前篇前期之部(自十七年至廿五年)
定價 金六拾錢 郵稅 金四錢
前篇附錄前期(自廿六年至廿七年)
定價 金六拾錢 郵稅 金四錢
後篇後期(自十七年至廿五年)
定價 金貳拾錢 郵稅 金四錢

楠田琳藏編 加藤米子編

產婆試驗問題答案集

冊一全 正價 金貳拾錢
郵稅 金貳錢

加藤 猛編纂

新纂處方示要

冊一全 定價 金五拾錢
郵稅 金四錢

山崎元脩先生著

產科要論

版二第 冊一全 定價 金八拾錢
郵稅 金六錢

山崎元脩先生纂著

診法示要

冊一全 定價 金壹圓
郵稅 金六錢

醫學士 大谷津直齋先生編

植物學講本

冊一全 正價 金七拾五錢
郵稅 金六錢

工科大学教授工学博士 高松豊吉先生
医科大學教授醫學士ドクトル 丹波敏三先生編纂
東京衛生試験所長藥學士 田原貞純先生

化學工業全書

卷一出版 正價 金六拾錢
次卷續出 郵稅 金六錢

小栗栖 香 平先生 纂譯 谷口秀太郎先生 訂正增補
福見 尙 賢先生 纂譯 渡邊醇之助先生

增訂 獨和辭典大全

第四版 全一冊 正價 金參圓五拾錢
量目五百七十頁

子爵品川彌二公題字 貴族院議員法學博士山脇玄先生校閱 田村化三郎先生纂譯

改訂 袖珍 獨和字典

第四版 全一冊 正價 金八拾錢
郵稅 金六錢

文部省參事官兼第一高等學校教授寺田勇吉先生 纂譯
第一高等學校教授深志虎吉先生

獨英和三對小字彙

全一冊 正價 金壹圓五拾錢
郵稅 金拾錢

第一高等學校獨逸文學科撰定

新撰 獨逸文典教科書

全二冊 前篇詞論 正價 金貳拾錢
後篇文章論 郵稅 金貳拾錢

第一高等學校獨逸文學科編纂

獨逸語讀本

第二版 全一冊 正價 金四拾錢
郵稅 金四錢

第一高等學校獨逸文學科教授校閱

コムフォルト氏獨逸語階梯

第二版 全一冊 正價 金壹圓拾五錢
郵稅 金拾錢

Comfort's A. German Course.

ブツフハイム氏獨逸新讀本

第一、三版、正價 金五拾錢
第二版 實切れ 郵稅 金四錢

Buchheim, Modern German Reader.

平塚三二郎先生編輯

獨逸文典階梯

全二冊 前篇詞學 第四版 正價 金貳拾錢
後篇文章學 第二版 郵稅 金貳錢
實價 金貳拾錢 郵稅 金貳錢

陸軍大學教授 司馬幸太郎著

獨逸會話篇

本小 冊一全 正價 金拾五錢 郵稅 金貳錢

獨逸文ギソ一氏文明史

冊一全 正價 金七拾錢 郵稅 金六錢

2/35

明治廿八年七月五日印刷
同年七月九日發行

定價金貳拾錢

編纂者 故 三 濳 謙 三

東京市芝區愛宕町三丁目二十番地

發行者 小 立 鉦 四 郎

東京市本郷區湯島切通坂町八番地

印刷者 松 澤 江 三

東京市麴町區下六番町十七番地



發兌元 南 江 堂

印刷所 (電話三六九番) 同 勞 舍

東京市本郷區湯島切通坂町八番地
東京市麴町區下六番町十七番地

東京賣捌書肆

關西賣捌書肆

島村利助

日本橋區馬場町

丸屋書店

日本橋區通三丁目

朝香屋書店

神田區鍛冶町

半田屋書店

本郷區春木町

文詳堂

本郷區湯島切通

南江堂支店

本郷區春木町

松村九兵衛

大坂市南區心齋橋筋一丁目

71
305

